

319  
110

日本神代史正解第一

大日本神祇道本部藏版

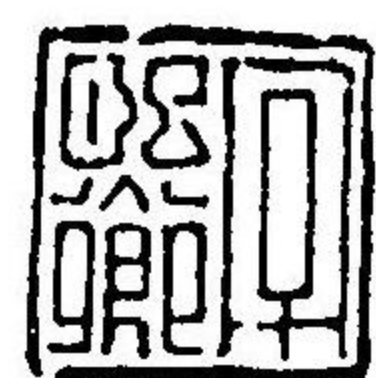


敬神

明治  
38 4 25  
内交

心三三三三三三三三三三

心三三三三三三三三三三



○中臣祓

高タカ天アメ原ハラ仁ニ神カミ留トモ坐イマシ須ス皇スメ親ムツ神カミ漏ロ岐ギ神カミ漏ロ美ミ乃ノ命イコト於オ以テ天アメ八ヤ

百ヒャク萬マン神カミ等ト乎ヤ神カミ集ツド仁ニ集ツド賜タマフ比ヒ神カミ議ハカリ仁ニ議ハカリ賜タマフ天アメ吾ワ皇スメ御ミコト孫ノ尊ト

乎ヤ波ハ豐トヨ葦アシ原ハラ乃ノ水ミヅ穗ホ乃ノ國クニ於オ安ヤス國クニ登ト平ヒラ介ケ久ク所シヨ知シ食ケ登ト事コト

依ヨ之シ奉タテマツ幾キ如カ此コト依ヨ之シ奉タテマツ志シ○國クニ中ナカ仁ニ荒アラ振フル神カミ達タチ乎ヤ神カミ問トハ之シ

仁ニ問トヒ賜タマフ比ヒ神カミ掃ハラヒ仁ニ掃ハラヒ賜タマフ比ヒ天アメ語コト問トヒ之シ磐イハ根ネ樹キ乃ノ立タチ草クサ乃ノ垣カキ

葉ハ乎ヤ毛モ語コト止トメ天アメ磐イハ座ザ放ハナ千チ天アメ八ヤ重ヘ雲クモ乎ヤ伊イ豆ヅ乃ノ千チ別ワケ仁ニ

千チ別ワケ天アメ降クダ利リ依ヨ之シ奉タテマツ幾キ如カ此コト依ヨ之シ奉タテマツ志シ○四ヨ方マタ乃ノ國クニ中ナカ

仁ニ大オホ倭ヤマト日ヒ高タカ見ミ乃ノ國クニ乎ヤ安ヤス國クニ登ト定サダ奉マツ豆マメ下シタ津ツ磐イハ根ネ仁ニ宮ミヤ柱ハシラ

太敷立高天原 仁千木高知 吾皇御孫尊 乃美頭 乃御  
 舍仁仕奉天 乃御蔭日 乃御蔭 登隱坐 天安國 登平介  
 久所知食 牟 ○國中 仁成出 牟天 乃益人等 加過 於犯 氣  
 牟雜々 乃罪事 答崇 利 ○天津罪 登波 畔 乎放 地溝 於埋  
 樋 於放 地敷 藜串 刺生 剝逆 剝許々 太久 乃罪 乎天津罪  
 登波 法別 天 ○國津罪 止波 生 乃膚斷死 乃膚斷 白人胡  
 久美已 加母 乎犯 世留 罪已 加子 乎犯 世流 罪母 登子 登  
 犯 世流 罪子 登母 登犯 世流 罪畜 於犯 世流 罪昆虫 乃災  
 高津神 乃災 高津鳥 乃災 畜仆 死 蠱物 世留 罪許々 太久

乃罪 乎出 天牟 ○如此出 天波 天津宮事 乎以 天津金  
 木 乎本 打切 未打斷 豆千座 乃置座 仁置足 波之 天津  
 菅曾 乎本 苻斷 末苻切 豆八針 仁取辟 豆 ○天津祝詞 乃  
 太祝詞 乃事 於宣 禮如此宣 羅波 ○天津神 者天磐戶 於  
 押開 幾天 八重雲 乎伊豆 乃千別 仁千別 天所聞食 牟國  
 津神 波高山 乃末 短山 乃末 仁登 利坐 豆高山 乃伊惠理  
 短山 乃伊惠理 於撥別 豆所聞食 牟 ○如此所聞食 天波  
 罪 止云 罪咎 止云 咎波 不在 止科 戶 乃風 乃天 乃八重雲  
 於吹 放津 事 乃如 久朝 乃御霧 夕 乃御霧 於朝 風夕 風 乃

吹掃事フキハラシ乃如久ノゴトク大津オホツ乃邊ノヘ仁居ニコ大船オホフネ乃舳ノヘ綱解放ツナトキ地チ鱸トモ  
綱解放ツナトキ豆マメ大海原オホウミハラ仁ニ押放オシハナ津ツ事コト乃如久ノゴトク彼方カカタ屋ヤ繁木シゲキ加ガ本モト  
乎ナ燒鎌ヤキガヤ乃敏鎌ノトガヤ於ナ以モツ豆マメ打掃事ウチハラシ乃如久ノゴトク遺ノコ禮レ留ル罪ツミ波ハ不ア  
在ナリ止ト祓賜ハラヒタマフ比ヒ清賜事キヨメタマフコト於ナ高山タカヤマ乃末ノスエ短山ミカヤマ乃末ノスエ與ヨ利リ佐久良ササク  
谷タニ仁ニ落瀧オチダキ津ツ速川ハヤカハ乃瀨ノセ仁ニ坐マシ須ス瀨織津セオリツ比咩ヒメ止ト云神大海イフカミオホウミナ  
原ハラ仁ニ持出モチイダシ奈ナ牟ム如此持出カクモチイダシ那ナ波ハ荒鹽アラシホ乃鹽ノシホ乃八百道ノヤチヤチ乃八ノヤチ  
鹽道シホチ乃鹽ノシホ乃八百會ノヤチヤチ仁ニ坐マシ須ス速開都ハヤアキツ比咩ヒメ登ト云神持可々イフカミモチカカ  
牟ム吞ノム天牟テンム如此可々吞カクカクノム牟ム豆マメ氣吹戶キフキド仁ニ坐マシ須ス氣吹戶主キフキドヌシ  
登ト云神氣吹放イフカミケフキハナチ豆マメ牟ム如此氣吹放カクキフキハナチ波ハ根國底國ネクニソコクニ仁ニ坐マシ

須ス速佐須良比咩ハヤサスラヒメ登ト云神持佐須良比咩イフカミモチサスラヒメ失ウシナヒ豆マメ如此カク  
失ウシナヒ豆マメ波ハ遺ノコ禮レ留ル罪ツミ止ト云罪咎イフツツミトガ止ト云咎イフツツミトガ波ハ不在物ナラズモノ於ナ止ト祓賜ハラヒタマフ  
比ヒ清賜キヨメタマフ登ト申事マシコト乃由ノヨ於ナ八百萬神等諸共ヤチヤチマンカミナラシモロトモ仁ニ在男鹿ナラシカ乃八ノヤチ  
乃耳ノミミ乎ナ振立フリタテ天テン聞食キコシ登ト申マシ壽ス

三種太祓

吐普トホ加身カミ依身ヨシ多女タメ  
寒言カンゴン神尊カミミコ利根陀見リネダミ  
波羅伊玉意ハラエヒメイ喜餘日出玉ヨシヨロヒデタマ

凡例

一 吾ガ國ノ神書ニハ序跋ト云フコトナシ 只天地ヲ以テ書籍トシ 日月ヲ以テ證明トス

一 本書ハ 神祇道唯授一人ノ嫡傳故吉川惟足先生ノ講談聞書祕訣ニシテ 往古予ガ祖先ヘ相傳セラレ 爾來歲久シク他ノ神祕傳書數十卷ト共ニ筐底ニ祕シテ曾テ世ニ示サバリシガ 今ヤ時機ニ鑑ミ 序ヲ追フテ廣ク世間ニ發表センコトヲ 謹デ 天地ノ神明ニ誓ヒ茲ニ第一篇ヲ刊行スルニ至ル是レ予ノ光榮ヲ滿天下諸君ニ頒ツ所以ナリ 冀クハ戸毎ニ一本ヲ備ヘテ 本教ノ趣旨實行ニ勉メンコトヲ望ム

一 本書ハ 一點ノ私意文飾ヲ挿マズ 專心平易ニシテ成ルベク明了ナランコトヲ旨トセリ 故ニ學者的ニアラズ 唯其ノ眞理ヲ世ニ紹介シテ 普ク世ヲ益セバ是レ足レリトセリ

明治三十八年四月

編者 識

日本國 神代史正解第一

目次

- 中 臣 祓
- 中 臣 祓 三箇之大事
- 全 五箇之大事
- 全 八箇之大事
- 最 要 中 臣 祓
- 解 除 祓
- 三 種 太 祓

日本神代史正解第一

天兒屋命五十四代嫡傳 吉川惟足講談  
全 六十三代嫡傳 宮澤圓隆編

○中臣祓



神宜太祓 正義直授祓トモ稱ス

天地ノ間此ノ書ニ先ンズル書ナシ ソモ神代ヨリ全部ヲ成シテ今日  
マデ傳ハリシ書ハ實ニ此ノ中臣祓バカリデアリマス 借此ノ書ノ濫  
觴ヲ尋ヌルニ太古氣化ノ始メノ神明 伊弉諾尊 陰神伊弉册尊ノ火  
ノ神軻遇突智ニ焦レテ神退リマシヲイト悲シフ思召サレ 之ヲ慕  
ヒテ滄泉ニ至リ玉ヒ(滄泉トハ非祭)一片ノ火ヲ燃シ(之ハ火ヲ燈ス器ニ)  
之ヲ見玉フヲ宣ハク吾意ハズ不須(不淨)凶目(不淨)汚穢(ハケシイ)ノ國ニ至

リキト追ヒ悔イテ還ヘリ玉ヒ日向ノ小戸ノ橘ノ櫓ガ原ニ至リマシテ  
 祓除シ玉フ 之ガ此ノ祓ノ本ノ起リデアリマス 講談ノ時先ヅ中臣  
 ノ二字ヲ擱キ祓ノ字義ヲ講ズルハ 吾ガ神祇道統家代々ノ遺習デア  
 リマス ソガ所以ハ祓ノ功ニ依テ天地一体ノ本源ニ歸スルカラデア  
 ル 此ノ理リハ後ニ至リテ委シク分リマス  
 祓トハアラユル汚穢不淨ヲ解除スルノデ 其解除セラル、物ニ  
 種々アリマス 雲霧ハ天ノ不淨デアル 塵芥ハ地ノ不淨デアル 氣  
 質人慾ハ人ノ不淨デアル 此ノ不淨ヲ解除スルニ内清淨ト外清淨ト  
 ノ二種アリマス ソヲ祓畢ツテ後眞ノ清淨ニ歸スルノデアル 天地  
 開闢モ祓ノ徳ニ在リ 天地モ祓ノ功ニ依テ立ツ 如何トナレバ天ハ  
 風ヲ以テ雲霧ヲ祓フ是レ内清淨デアル 地ハ雨ヲ以テ塵埃ヲ祓フ是  
 レ外清淨デアル コハ陰陽自然ノ理リデアリマス 今一人ノ上ニ於  
 テモ形ハ地ニシテ陰ナルガ故ニ變ゼズ 心ハ天ニシテ陽ナルガ故ニ

變動ス 此ノ理リ最モ肝要デアリマス 能工夫シテ祓ノ根元ヲ知ラ  
 ネバナラヌ (水ノ靈氣ハ廣瀬) 祓ヒ洗ヒ五音相通シテ同訓義デアリマス  
 儲又人ニ於テハ心ヲ清ムルノガ内清淨ヲ沐浴齋スルノガ外清淨  
 デアリマス

中 臣

中ノ字ニ口傳ガアリマス 中ハ過不及ヲ去ツテ事物皆適中ス  
 ルヲ云フ 人倫各ソノ節ヲ守テ本分ヲ失ハザレバ自ラコレ天ノ徳ト  
 異ナルコトハナイノデアアル 私慾ヲ祓フテ心ヲ清ムルハコレ内清淨  
 デアルト云フ事ハ今モ述マシタガ 此ノ人慾ノ私ヲフモノ、種類ハ  
 枚擧ニ遑マナキユヘコレハ略シテ措キマス 沐浴シテ身ノ垢穢ヲ祓  
 フハ分ニ應ジテ清淨ノ禮服ヲ着スルト同ジ意味ニテ コレ外清淨デ  
 アリマス 斯クノ如ク内外清淨ニシテ始メテ天理ニ歸スルノデアアル  
 所以如何トナレバ事ヨリ理ニ入ルコトモアリマス 又理ヨリ事ニ及  
 ボスコトモアリマス 譬バ人禮服ヲ着スレバ塵芥ノ中ニ坐スヲ嫌フ



ガ如クコレ事タル外清淨ヨリ内清淨ノ理ニ入ルノデアアル 氣質人慾ノ私ナクシテ内清淨ナレバ自ラ外儀ノ事業モ清淨ニナリマス 譬バ人ヲ罵詈迫害スルハ内ノ嗔怒ヨリ發スルノデ嗔怒ナケレバ則チ憐愍慈育ノ事アルガ如シ○中臣ノ二字又ハ意義ヲ君臣ノ二字ニ取リマス故ニ亦君臣祓トモ云フ ソガ所以ハ君ハ上ニ位シテ物ノ本体即チ中心デアラセラレマス 臣ハ下ニ在テ上ニ應シ上ヲ資ク 君ハ靜デアル 臣ハ動デアアル 天在テ後ニ地アリ 君在テ臣アルノデアアル 然リト雖唯君ノミ在テ臣無キコトハナラヌ 唯天ノミ在テ地無キコトモナラヌ 故ニ天地一体上下合体デアリマス 中ハ正中能ク物ニ應ズトノ意 臣ハ富ノ訓デ物ノ満足シテ自由ナル意 則チ臣ハ君ノ德澤ニ依テ富榮ユルガ故ニ富ヲ臣ニ充ツ 中臣ノ文字即君臣ノ意義ナリト説ク 之ヲ口傳トシテアリマス 凡ソ臣富テ君貧シキ道理ハアリマセヌ 仁徳天皇ノ大御言ニモ民ノ富ハコレ朕ノ富ナリト仰セラ

レ賜ヒテアリマス コレ天津理リノ勅語デ 天津理リニ合ヘル富貴ヨリ大ナルモノハアリマセヌ 偕又各一人ノ上ニ於テモ君臣ノ意義アルコトヲ知ラネバナラヌ 即チ人々已有ノ神明ハ君ニシテ氣質ハ臣デアアル 故ニ已有ノ君タル精神ガ臣タル氣質ヲ使役スルハ當然デアリマス 然ルヲ臣タル氣質ノ爲ニ已有ノ君タル精神ヲ煩ハスカラ漸ク常闇トナルノデアアル 爰ヲモテ人ハ何事ニモ心ヲ靜メテ理非ヲ鑑ミ假初ニモ氣質人慾ノ爲ニ心ノ君ヲ辱シメザラン様慎ムコト最モ肝要デアリマス ○尙又中臣ハ(中ニ當ツ人)トモ訓ズ コハ君臣ヲ君人ト云フ意義ニ取ルノデアアル 然レバ則チ君ノ一事ニ歸シマス 故ニ又中ノ字ニ當ルノ訓アレバ人ニ當ルトモ云フ ソガ所以ハ慎メバ則チ人ノ人タルニ中フコレ中臣デアアル 中臣ニ違ヘバ人ニ非ズ 上御一人中ニ應ヒ玉ヘバ下萬民悉ク臣タルニ應ジテ君臣合体ノ實此處ニ順ハレマス 前ニ謂ハユル中ハ偏ナラザルヲ云フトアルハ 伊弉

諸尊<sup>ナキノコトアハキ</sup>尊德ガ原ニ於テ始メテ祓除<sup>シキハラヒ</sup>シ玉フ時宣ハク上ツ瀬ハコレ太ダ疾<sup>イハ</sup>シ  
 下ツ瀬ハコレ太ダ弱<sup>ヨク</sup>シ便チ中ツ瀬ニ濯ギ玉フ 中臣ハ即チ此處ニ基  
 ズケルノデアリマス ○此ノ祓ハ 天兒屋命ト天太玉命トノ二神ガ  
 天照大御神ノ勅ヲ奉ジテ體任シ玉フト申ス 此ノ二神ハ後世ノ左右  
 大臣ニ相當シマス 中臣ニ先ヅ天下ノ大綱ヲ舉ラレ君臣合体ノ眞理  
 ヲ口説モテ傳ヘラレテアリマス 此ノ書製作ニ就テ二説アリ 前述  
 ノ如ク天兒屋命トモ 又<sup>(天種彦命)</sup>ノ代ニ製作シ玉フトモアル但シ之  
 ハ或説デアリマス 又御形ヲ成ラザル伊弉諾尊ヨリ太神兒屋根ニ至  
 ル云ト宜ナル哉之ヲ以テ正義直授ノ祓トハ申スノデアアル 天照大  
 御神ヨリ御直傳ノ故ニ此ノ祓ニ五倫ヲ統ベテアリマス 五倫トハ君  
 臣夫婦父子兄弟朋友デアリマス 夫婦ハ父子ニ先ダツ 夫婦ハ二柱  
 デアル 夫婦能ク人ヲ生ム 然ルニ吾大日本ハ君子國ナルガ故ニ君  
 臣ヲ以テ五倫ノ最初ニ舉グルカラ吾國ヲ君土トモ申スノデアアル 總

ジテ陰陽自然ノ理リヲ崇ビ直ナルヲモテ道ト爲テアリマス 因ミニ  
 明サク<sup>(明サクハ云フ事)</sup>魂魄ノ二ツモ陰陽デアリマス 魂ハ陽ノ靈氣  
 故ニ天デアアル 魄ハ陰ノ氣 故ニ地デアアル 但シ二ツ俱ニ神デアリ  
 マス

○神道ニ再見ノ祓ト申ス事アリ 曰ク好キ花ヲ見テ好キ哉ト思ヒ美  
 女ヲ見テ美シキ哉ト思フハ性感ノ任デアアルガ再見ノ時ハ之ヲ折リ又  
 犯サント欲スル念慮勃然トシテ生ズ 之ヲ再見ノ穢レト申シマス  
 斯クノ如ク物ノ積ミ積ンデ罪ト成リ終ニハ咎メニ遭フノデアアルカラ  
 積マズシテ之ヲ掃フヲ再見ノ祓ト申シマス 總ジテ天地ノ間ニアリ  
 トシアラユル事理物々一ツトシテ此ノ祓ニ見エヌモノハナイノデア  
 ル ○尙ホ好キヲ見テ好キト思ハズ美シキヲ見テ美シト思ハヌモコ  
 レ無性謂ハユル無神經デアリマス

○序段 諸神勸請之段

高天原<sup>仁</sup>神留坐<sup>須</sup>皇親神漏岐神漏美<sup>乃</sup>命<sup>於</sup>以<sup>天</sup>  
 八百萬神等<sup>乎</sup>神集<sup>仁</sup>集賜<sup>比</sup>神議<sup>仁</sup>議賜<sup>天</sup>吾皇  
 御孫尊<sup>乎</sup>波<sup>乎</sup>豐葦原<sup>乃</sup>水穗<sup>乃</sup>國<sup>於</sup>安國<sup>登</sup>平<sup>介</sup>久<sup>所</sup>  
 知食<sup>登</sup>事依<sup>之</sup>奉<sup>幾</sup>如此依<sup>之</sup>奉<sup>志</sup>

此ノ段ハ序文デアリマス コレヨリ以下序段共十三段ニ分タル 此  
 ノ祓古<sup>イニシ</sup>ハ和字ニテアリシガ常盤<sup>オキハ</sup>大連<sup>オキハ</sup>之ヲ漢字ニ書キ替ヘ玉ヒタノデ  
 ア<sup>ル</sup>高天原<sup>仁</sup>神留坐<sup>須</sup>高天原一言ニテ云ハ<sup>ハ</sup>諸神來會ノ處即チ天  
 デアル 高ハ縦ヲ説キ原ハ横ヲ説ク天ハ真<sup>マコト</sup>ノ畧語コレ不測ノ神明ノ  
 御座處即チ天ニ有ル地ト申ス意 故ニ一社モ高天原デアアル 一家ニ

在テハ神靈奉祀ノ處 人ニ在テハ一身ノ真<sup>マコト</sup>中心<sup>シン</sup>ノ臟<sup>ウツロ</sup>ノ清淨ナル處  
 等ハコレ皆高天原デアアル 原ト腹同訓ニシテ(口)畢竟何處ニテモ清淨  
 ノ場處ハ即チ高天原デアリマス ○音モ無ク香<sup>カ</sup>モ無キ神明分殊シテ自  
 己<sup>コト</sup>ヘ勸請<sup>クワン</sup>スコレ神留リ坐スデアアル 能ク慎<sup>ツツシ</sup>ミ心ヲ靜<sup>シズ</sup>メテ考ヘ見ル時  
 ハ吾ニ異見云フモノアリコレ即チ神デアリマス 世人ノ謂ハユル良  
 心ガ答ムテフ此ノ良心ナルモノガ取りモ直サズ己<sup>コト</sup>心中ニ留リ坐ス神  
 ナリト知ラバ惡事ハ毛頭出來ヌノデアアル 去レバ神ハ外<sup>ソト</sup>ニノミアル  
 ニアラズ 外ニシテ見ルニアラズ ソモ神ノ訓ハ(カ)ンガミノ訓ヨリ  
 起ツタノデ 後世劍ノ鏡ヲ鑄<sup>コ</sup>ルガソノ(カ)ガミノ訓ハ元(カ)ンガミルノ  
 訓ヲ中略シタモノデアリマス 鏡人萬象ヲ照スニ偏<sup>ヒナ</sup>頗<sup>ハ</sup>ナキガ如ク人  
 ノ面ヲ見テ「ミメヨキ」「アシキ」「ヨゴレ」「キレイ」ナルヲ鏡ノ如ク吾心ニ(カ)ガ  
 ミル(神)坐ス 此ノ(カ)ガミヲ中略シテ神トハ稱シ奉ルノデアアル 心ハ  
 萬象ヲ含ム 心ニ蟠<sup>ワダカ</sup>マリテ居ル 大虚ノ如ク慎<sup>ツツシ</sup>ミ守ル時ハ吾心ニ常

ニ神宿リ坐ス 慎ミナクシテ惡シキ事ノミ心ニアル時ハムサトシタルモノ、棲カトナル 故ニ慎ミハ秒時モ怠ツテハナラヌ ○尙ホ神留リ坐ストハ天地ニ滿チテ神坐スト申ス義デ何處モ隠スベキ處ナク委細ニ説明スル時ハ吾心中ニモ天地在リテ悉ク心ノ臟ニ具備シ慾心ノ私ナキ時ハ全身ニ滿チテ神留リ坐スノデアアル 總ジテ祝詞等ノ發語ニ高天原ニ神留坐スト書ク習ヒニナツテ居ルハ 蓋シ此ノ謂ヒデアリマス

### 皇親

(スメ)ハ(スメラギ)ノ下略デアアル (スベ)ト讀バロニアタルカラ(スメ)ト讀ノデ 五音(ヘメエレエ)ト相通ジマス (スベラキ)ハ統ベ平ラギデ 天子ハ天下ヲ統ベ治メ玉フトノ意 皇統ハ(スベムツマシキ)ノ畧語デアアル 親ノ訓義ハ(六ツ甘シ)ニテ甘クスル六ツノ交ハリノ意コレ誠ニ王者ノ御德義ヲ指ス 上御一人ノ思召ニ依テ五倫ノ道ムツマシケレバ萬民安靜ニシテ一國一家各ソノ正シキヲ得ルニ至リマス

### 神漏岐神漏美乃命於天

神ノ訓義ハ前ニ於テ述ベレ故畧シ

テ招ク 漏ハ助ケノ語デアアル ○神漏岐ノ岐ハイザナギノ(ギ)ノ字ニテ陽神ノ御事デアリマス 「カキクケ」ト五音皆牙ニアタル 牙ハ骨デアアル 骨ハ陽デアウツテ父方ノ御事デアリマス 天照大御神ハ女神ニ坐マセドモ 瓊々杵尊ノ御爲ニハ正嫡ノ祖デ在セラレマス ○神漏美トハ 高皇產靈尊ノ御事ニテ 瓊々杵尊ノ御爲ニハ外祖父ノ神デ在セラレマス (之ヲ吾國外)神漏美ノ美ハイザナミノ(ミ)ノ如シ (マミムメモ)ト五音皆唇ニアタル 唇ハ肉デアアル 肉ハ陰デアツテ母方ノ御事デアリマス 斯クノ如ク此處ハ陽音陰音ニ別チテ 二神ノ御名ヲ書キ顯ハシ玉ヒタノデアアル 依テ 天照大御神ハ陽音 高皇產靈尊ハ陰音ナリト能ク心得置カネバナラヌ 偕何が故ニ御名ヲ斯様ニ書カレ玉ヒシカト云フニ ソハ此ノ中臣祓ヲ見ル事 神道ノ大事ト雖モ淨不淨共ニ讀ムベク傳へ來ル 故ニ神名ヲ擧グ玉ハヌノデアアル ○異

說ニ 神漏岐ヲ 高皇產靈尊トシ 神漏美ヲ 天照大御神トシテ暗  
 ニ吾ガ道統家ノ傳ヲ非難シ居ルガ誤解デアリマス○命ヲ以テトハ  
 (ミコトノリヲ以テ)トノ義ニテ即チ 二神ノ御命令ヲ以テトノ意  
**八百萬神等** ヤマトノカミヨロフカミカミトハ八ツハ神道ニテ貴ム數デアル 百萬ハ數ノ  
 極即チ數ノ多キ意○神等ヲトハ諸神ヲトノ意ニテ今時ノ人々ヲト云  
 フニ同ジ 去レバ爰ハ天地ノ神々殘ラズヲト云フ意義デアリマス  
**神集** カミツク **集賜** ツクカミトハ二神ヨリ御相談ヲナサレンガ爲ニ諸神ヲ召集  
 シ玉フトノ義デアリマス  
**神議** カミハカリ **議賜** ハカリカミ **比天** ヒタマトハ二神ヨリ勅語モテ事理ノ宜シキヲハカラセ  
 玉フ事ニテ諸神御旨ヲ奉ジ信ヲ以テ議リ玉フ コレガ神集ヒ神議リ  
 デアリマス 神ノ字ハ神德ニ對シテ從カレ玉ヒタノデアアル 即チ神  
 明ノ御心ハ鏡ノ如クナルガ故ニ神ノ字ヲツケテ唱ヘマヌルノデ  
 シ私ナキ處デアル 總ベテ 大君ハ一人ノ心ヲ以テ宜シトシ玉ハズ

天下萬人ノ心ヲ以テ御自ラノ心トシ玉フ 唯御自身ノ御心ニノミ  
 宜シト思召テモ萬人悅服セザル時ハ大事ハ遂ゲヌ内ニ破レマス  
 ハ天下ヲタモツ人ノ最モ慎ムベキ處トシテアリマス 故ニ神議リト  
 申スコトヲ此ノ書ノ始メニ舉ラレ玉ヒタノデアアル 蓋シ神議リハ心  
 ニ總テヲハカル法デ今日ニシテ之ヲ述ベバ自己ノ智能ヲ忘レ虚心平  
 氣ニシテ議ルハ神議リデ一時ノ威勢ヲ以テ集ハ神集ヘニアラズ 今  
 一人ノ上ニ於テモ自己ノ心中ニ神集ハザル時ハ身ハ亡ヅルニ至リマ  
 ス 故ニ吾神道ニハ(ミ)ハカリバシラトテ貴ム道アリ 又天浮橋トテ  
 一天四海ニ橋ヲカケ渡ス道モアリマス 兎ニ角一國一家一身ヲ治ム  
 ル等ニハ浮橋ヲカクルヲ第一ノ義トシテアリマス(傳)サテ何ノ爲ニ神  
 集ヘ神議リ玉ヒシヅト申スニ 皇孫ヲ中津國ヘ天降シテ天下ヲ讓リ  
 國民ヲシテ安ラカニ世ヲ過サシメント思召サレ乃チ諸神ヲ召集シテ  
 御相談ヲナサレマシタノデ コハ畢竟諸神ヲシテ 皇孫ニ服從セシ

ノ而シテ天下ノ政ヲ掌ロニ握ランコトヲ 二神思召テ神議リ玉ヒシ  
ニテ深キ旨アル事ト申シ傳ヘラレテアリマス

**吾皇御孫尊** 乎波

吾ハ親ミノ語デアアル 皇ハ(スメラギ)ノ下略コ

ハ前ニ見エマシタ○御孫トハ 天照大御神ノ御孫ナルガ故デアアル

高皇產靈尊ハ御母方ノ御外戚デ在セラレマス○尊トハ崇メテノ語即

チ 瓊々杵尊ノ御事デアリマス

**豐葦原水穗國** 於

豐ハ(ユタカ)ノ古語即チ稱美ノ語デアアル

葦ハヨシノ訓(口)原ハ廣シト云フ意 倍爰ニ葦原ト云フニ就テニ義ア

リマス 一ツニハ天地ノ開ケ始メシ時吾國萬國ニ先ダチ葦ノメグム

ガ如クニ生ジテ國ト成リシカバ此ニ象ドリテ號ケ 二ツニハ葦ハ種

子ヲ下サズシテ年々ニ根ザシ絶エズ榮ユル草ナレバ吾國モ此ノ葦ノ

生イ立ツ如クニ自ラ榮エ治マルベシトノ意ニテ號ク○水穗ノ國トハ

熟田ノ義デアアル 穗ハ水ノ德ニアヅカリテ熟ス 依テ水ハ(ミツル)ト

云フ訓義デアリマス 又管ニ穗ノミデハナク萬物皆水ノ德ニ依テッ  
ノ性ヲ養ヒ保チテ居ル 穗トハ五穀ノ穂ヲ指ス 之ハ人命ノカ、ル  
本ナルガ故デアリマス○言フ心ハ國豊カニシテ葦ノ原ニ茂レルガ如  
ク五穀ヨク潤ヒテ(潤生)トハ云フ意(萬民等シク安居スル様ニ天下  
ヲ保チ玉ヘトノ國號ノ義デアリマス

**安國平介久所知食** 登

安國ハ玉ノ德デアアル 平ゲクハ寶劍ノ

德デアアル 所知食ハ鏡ノ德デアアル 即チ此處ニ三種ノ神器ノ御德ヲ

舉ラレテアリマス 去レバ此ノ一文ハ神勸ノ最モ肝要ナル處ニテ

天照大御神ヨリ 皇孫ノ尊ヘ天下ヲ御讓リノ時國家ヲ治ムルノ要ハ

先ヅ萬民ノ心ノ安キヲ本トスベシトノ勅命デアラセラレマシタ 萬

民等シク心ヲ安ズルハ玉ノ德ニヨラネバナラス 玉ハ惠ミノ情デア

ツテ王者ノ德ノ最第一トシテアリマス アラユル事業政令ハ皆爰ニ

基クノデ爾スレバ必ズ安國デアリマス○平ゲクトハ 國ニ邪氣入慾

等アレバ直チニ之ヲ打チ掃ヒ以テ多數ノ人ヲ救助スルハコレ寶劍ノ  
 徳デアリマス 凡ソ物アレバ必ズ則アリ劍ハ法ノ根元トシテアリマ  
 ス○所知食トハ 天下ノ事ヲ所知食トノ義デアアル 則チ正邪ノ堺ヲ  
 知ロシメシテ賞罰ヲ正シウシ以テ天下ヲ治ムルハコレ鏡ノ徳デアリ  
 マス 鏡ハ即チ已有神明ノ表式デアアルト云フ所以ハ前ニ於テ述ベマ  
 シタ通りデアリマス○倭爰ニ知ルト云フ事ハ天下ノ君ノ至テ大切ナ  
 ル御事ニ屬スルノデ 知ルトハ國ノ安危ヲ知ルノデアリマス 故ニ  
 知ルハ(ヨシアシ別ル)ト云フ訓義デアアル 又知ルハ白デアアル 白キ物  
 ハソレトヨク知レルカラデアリマス 日中ヲ白日白中ナド云フモ盡  
 ハ明ラカニシテ白ク見ユルカラデアリマス 故ニ知ル白五音相通ジ  
 テ意義相同ジク 今君ノ御座處ヲ城ト申スモ國ノ政ヲ(シロシメス)ト  
 ノ意○因ミニ宮城ヲ(ミヤシロ)神社ヲ(ミヤシロ)ト讀ムモ共ニ神明坐ス  
 (御屋代)トノ意義デアリマス

事依之奉

トハ神勅モテ 皇孫ノ尊ニ天下ノ事ヲ任セ奉リシ事  
 乃チ勅ノ字ヲモ(事ヨザス)ト訓ズ○幾トハ(ケリ)ト云フ手爾葉デアリ  
 マス

如此依之奉

如此トハ上ヲ受テ下ヲ起ス語デアアル 此處ハ例ノ  
 神道ノ重ネ詞ニテ繰リ言モテ確ト定メ置カレ玉ヒタノデアリマス  
 今モ大事ノ義ヲ人ニ告グルニ幾度モ押反シテ言フ習慣ガ存シテ居ル  
 老人ナドハ別ケテ詞ニ念ヲ入レ幾遍モ重ネ詞ヲ遣フガコレ年寄り  
 ハ心ニ敬ミガ厚クナレル故ニ叮嚀反覆シテ言フノデアリマス

○第一 天孫降臨之段

國中仁荒振神達 乎神問之仁 問賜比神掃仁掃賜  
 比天 語問之磐根樹 乃立草 乃垣葉 乎毛 語止天 天磐

座放<sup>千</sup>天八重雲<sup>乎</sup>伊豆<sup>乃</sup>千別<sup>仁</sup>千別<sup>天</sup>天降<sup>利</sup>  
依<sup>之</sup>奉<sup>幾</sup>如此依<sup>之</sup>奉<sup>志</sup>

此ノ段ヲ天孫降臨之段ト申シマス 後世此ノ一段ヲ誕生ノ祈禱ニ用  
キテ唱ヘマスルノハ 皇孫ノ尊ノ天上ノ玉座ヲ離レサセ玉ヒテ此ノ  
葦原ノ中津國ニ天降り玉ヘルヲ 人ノ母胎ヲ離レテ出生セルニ象リ  
マシタノデ ソハ此ノ尊天降り玉ヒ日向ノ國高千穂ノ峰ニ初テ内裏  
ヲ立テ百王萬世ノ祖神ト仰ガレ 今上皇帝マデ皇孫王位ヲ相續坐シ  
テ目出度例シニ在ハシマス故デアリマス○コレヨリ末十二段ニ分テ  
ルハ十二支十二ヶ月及ビ十二時等ニ象レルニテ事ノ急ナル時ハソノ  
段ノ用ニ隨ツテ唱ヘヨトノ意義デアリマス  
國中<sup>仁</sup>荒振神<sup>達</sup>神問<sup>之</sup>仁問賜<sup>比</sup>  
ノ國ノ中ニトノ義デアアル 荒振神達トハ 荒神ノ事ニテ荒々シキ振

舞アル神々トノ意 神代ノ當時 大已貴命<sup>オホノミタマノミコト</sup>從神九萬八千五百七十二  
神ヲ率<sup>井</sup>テ<sup>九萬八千五百七十</sup>私ニ此ノ國土ヲ領有シ玉ヒテ威ヲ振ヒ  
居シカバ容易ク 皇孫ヲ此ノ國ニ天降シ玉ヒ難ク 爰ニ於テ天上ヨ  
リ彼ノ神ノ御許へ前後五度御使ヲ下シ遣ハシテ此ノ國ヲ 皇孫ノ尊  
ニ奉ルベシトノ旨ヲ問ハシメ玉ヒマシタ コレヲコレ神問<sup>ノ</sup>シニ問ヒ  
賜ヒト申スノデアリマス○夫レ天上ハ心デアアル 中津國ハ形デアアル  
形ハ心ノ命ニ應ズコレ順ニシテ中津國ノ諸神天上ノ命ニ服事スベ  
キハ當然ノ義デアリマス 心形ノ關係一人毎ノ上ニ於テモ亦斯クノ  
如シ 天上中津相和シテ一体トナレバ患ヘハナイノデアアル  
神掃<sup>仁</sup>掃賜<sup>比</sup> 天上中津相和シテ一体トナレバ患ヘハナイノデアアル  
トハ大已貴命ノ從神ノ内遂ニ歸順セザル荒神ア  
リシ故 最後ニ使命ヲ帶ビテ下リ玉ヒシ 經津主<sup>フツヌシ</sup>武甕槌<sup>タケウヅチ</sup>ノ二神  
天上ノ命令ニ依テ彼レ荒振ル神達ヲ悉ク打チ掃ヒ退ケ玉フトノ義デ  
アル 尙ホ委シキ義ハ神代卷ニ讓ル○蓋シ爰ガ寶劍ノ徳デアリマス



語問之磐根樹乃立草乃垣葉乎毛語止天

語問シトハ 斯様

ニ荒振ル神達ノスサミアラビタル邪氣ノ神ノ世ニテアリシカバ言  
 フ筈ナキ草木ノ類マデ邪氣ニ感ジテ言ヒ イト怪シキ事ノミアリシ  
 トノ意○磐根樹ノ立草ノ垣葉ヲモ語止テトハ 磐根ハ草木ト云ハン  
 縁ノ語 垣葉ハ草ノ助語デアアル 彼レ邪ツ神ヲ打チ掃ヒ退ケ玉ヒテ  
 後ハ 草木ノ言フ如キ怪シキ事ハ悉ク皆止ミタリトノ義デアリマス  
 ○斯ル怪シキ例シハ支那ニモ有リシト見エ左傳ト云フ書ニ石ノ言ヒ  
 シ事ヲ載セラレテアリマスガ之モ畢竟邪靈ノ所爲ト思ハル、ノデア  
 ル 又印度ニ於テモ佛華嚴教ヲ説レシニ諸ノ草木瓦石皆聲ヲ發シテ  
 讚歎セリトアル 併シ吾神道ヨリ云ヘバ 口アレバ言ヒ聲文ヲ作ス  
 コレ常ノ事ナリ 若シソノ國ソノ家ニ邪マナル行ヒアレバ ソレニ  
 感ジテコソ昔モ今モ怪シキ事ノアルナレ政道正シキ時ハ決シテ怪シ  
 キ事ノアルベキ譯ナシト斷ハラレテアリマス 去レバコソ此ノ段ニ

語止テト舉ラレタノデアアル 正道ヲ守ル時ハ怪シキ事ハ 天津神吾  
 ニ代ツテ忽チ掃ヒ止シムトアリマス

天磐座放天八重雲伊豆乃千別仁千別天降利

天磐座ハ天上ノ玉座デアアル コハ磐石ノ如ク堅固ナル御座處ト申ス  
 祝言デアリマス○放チハ離ルノ義即チ 皇孫ノ尊 天照大御神ノ御  
 側ヲ離レ玉フトノ意○天八重雲ヲトハ 之ハ天上ヨリ天降リトアル  
 縁ノ語デアアル 八重雲ハ品々ノ雲ト云フ意 八ツハ多キヲ意味ス  
 天子天上ニ坐シテ政ヲトリ玉フハ虚空ニ雲ノタナビケルガ如シ但シ  
 天上ハ(口)○伊豆ハ出出如ト申ス義ヲ春草木ノ芽ザシ出ル意 日本書  
 紀ニ稜威ト書カレ威儀正シク勢ヒアルノ義デアリマス○千別ニ千別  
 テトハ 道分ケ道分ケテトノ訓義ニテ爰モ例ノ重ネ詞デアリマス  
 神代ヨリ天子行幸ノ御時ニハ過チ不敬ノナキ様ニ道分ケノ役謂ハユ  
 ル露拂ヒノ役人ソノ他夫々ノ役人ヲ召シ供シ玉ヒシ事ノ由ハ神代卷

ニ委ク舉ラレテアリマス○天降リトハ 天子行幸ノ御事デアアル 今  
 日ニテモ天子ノ行幸ヲ天降リト申シ上ゲテ宜シイ コハ天上ノ玉座  
 ヨリ地下へ天降リ坐スカラデアアル○ソモ此ノ一段ハ 皇孫ノ尊天上  
 ノ玉座ヲ離レ供奉ノ神三十二神ヲ從ヘテ天ノ八重雲即チ雲霧ヲ押シ  
 分ケ威儀堂々ト瀧波津ヨリ船ニ召サレテ日向ノ國高千穂ノ峯ニ天降  
 リ玉ヘリトノ義デアリマス○今日人々氣質ノ八重雲ヲ掃フハ一人ノ  
 上ノ神明降臨ト申スモノデアアル  
 依之奉 如此依之奉  
 意義ハ序段ニ於テ述ベシ如ク天孫降臨  
 ノ評議相決シ勅詔相極マリシトノ意

○第二 國家經營之段

四方 乃 國中 仁 大倭日高見 乃 國 乎 安國 登 定奉 豆  
 下津磐根 仁 宮柱太敷立高天原 仁 千木高知 豆

吾皇御孫尊 乃 美頭 乃 御舍 仁 仕奉 天 乃 御蔭 日 乃  
 御蔭 登 隱坐 天 安國 登 平 介久 所知食 牟

此ノ段人ニ取テハ領地舍屋トテ 吾領地ノ分限ヲ營ミ城ヲ營ミ亦ハ  
 社頭ヲ造營シ家屋ヲ作ル等ノ祈禱ニ用キテ唱ヘマス  
 四方 乃 國中 仁 トハ天地四方ノ國ノ中ニトノ意 彼ノ漢土ハ自ラ  
 中國ト稱シ居レドモ 吾朝カラ云フ時ハ西方ノ國土ナル事日本書紀  
 ヲ見テモ知ル、ノデアアル 實ニ吾國コソ世界ノ中心ニ位シテ居ルノ  
 デ コハ地質學上カラ研究セバ判然スルノデアアル 吾國ヲ世界ノ端  
 ト思フハ一應ノ考ヘデ未ダ研究ガ足ラヌノデアアル 地質ヲ研究シテ  
 見ルト世界ノ真ン中ハ山脈ガ十字形ヲナシテ居ル 但シ山脈ノ所在  
 地及ピンノ交叉セル方角等ハ神秘ニツキ遺憾ナガラ今此處ニ明言ス  
 ル事ガ出來ヌ 抑モ山脈十字形ヲナシ居ル地ハ全世界中只一ヶ所ヨ

リ外ナイノデアアル 勿論眞ン中ガ何ゲ處モアルベキ道理モナイ 借  
 此ノ十字形ノ地即チ世界最勝妙中心ノ地ガ吾日ノ本ノ而モ亦中央ノ  
 處ニ確乎トシテ存在スルカラ愈々以テ不思議ノ感ニ堪エヌノデアリ  
 マス 天人合一デ此處ハ人体ニ取ルト頂キノ上ノ(ツムジ)ニ當ツテ居  
 ル 今ニ時機到來スルト 此ノ(ツムジ)ノ地ニ萬世不動ノ 至尊ノ御  
 座處ガ設ケラレ巍然トシテ雲ニ聳ユル御造營ヲ拜スル事ガ出來マス  
 ソノ時コソ世界ノ相續權ヲ握ラセ玉ヒテ日本一國ノ主權者デハナ  
 ク世界ノ主權者トナラセ玉フノデ 爰ニ至テ初テ世界ニ比ナキ皇統  
 一系ノ所以及ビ大和魂 ル所以ガ明ラカニ全世界中ニ知レ直ルノデ  
 アリマス○就テ又國土出生ノ先後ヲ見レバ 正ニ吾日ノ本ノ國ハ世  
 界ノ總領國デアツテ四方ノ萬國ハ皆庶子國デアアル 庶子國トシテ一  
 天下ノ總領國ヲ犯ス事ハ元ヨリ神明ガ許シマセヌ 若シ之ヲ犯ス時  
 ハ直チニ天誅ヲ加フ 尤モ可ナリデアアル

### 大倭

トハ吾日本ノ國ノ事ニテ日本書紀ニハ大日本ト書カレテアリ  
 マス○抑モ(ヤマト)ノ訓ハ吾國ノ世界萬國ニ先ンジテ生ゼシト云フ意  
 義ナルヲ 神代ノ初ノ山ニ人ノ往キ來セシ跡アリシ故(ヤマト)ハコレ  
 山跡ノ義ナリト説キ 又(ヤマト)ハ山ニ止ルト云フ事ゾト説キ 或ハ  
 又(ヤマト)ハ山ニ家アリデアアル家アレバ必ズ戸アリ戸ハ家ノ稱ニシテ  
 何戸ナド云フガ如シ爰ヲモテ山戸ト云フ意義ナリト 斯様ニ種々説  
 カレテアリマスガ 吾道統家ノ傳ハ左ニアラズ 吾國ハ(ヤ)ト開ケ異  
 國ハ(ア)ト開ク(ア)ハ(ヤ)ノ響キデアツテコレ即チ吾國ノ萬國ニ先達テ(ヤ)  
 ト急カニ開ケシトノ意デアリマス (ヤ)ト云ツテ今日人ノ放ツ弓矢ノ  
 矢モ急カニ飛ブガ故矢ト名ケタモノデアアル (マト)ハ端的ニ當ル意  
 天地ノ開クルヤ甚ダ急カニテアリシトノ義デアアル 此處ハ(ヤ)ノ口  
 傳ヲ得ネバ十分ニ了解シ難ク 未ダ相傳ヲ得ヌ輩ヲ漫リニ非義シテ  
 天ツ罪ヲ犯スコトナカレ

### 日高見乃國乎

吾國ハ東方ニ位キシ 日出レバ其ノ儘日高ク見ユ  
 ルトノ意味モテ日高見ノ國ト申スノデアアル 高見トハ貴クシテ見ル  
 ト云フ意 コハ日ノ徳ヲ尊ビ仰ギ見ルノデ 即チ吾國ノ世界ニ勝レ  
 タリト云フ意義デアリマス 日高見ノ國總ジテハ日本國中ヲ指シ別  
 シテハ日向高千穂ノ大内ヲ指ス

### 安國定奉

斯様ニ貴ク勝レタル國デアツテ神代ヨリ萬世ニ至  
 ルマデ 此ノ國土ヲバ寸地モ犯スコトノナラヌ道定マリ 寶祚ノ隆  
 シナランコト天壤ト共ニ窮リナカルベシトノ神勅モテ幾萬年ノ後マ  
 デモ安國ト定メサセ玉ヒマシタ コハ假初ニ定メ玉ヒタノデハナク  
 實ニ天地ヲ貫ケル決定ノ大御言デアリマス 代々中臣ノ相傳ヲ慎ン  
 デ怠ラズ守ル時ハ神明ノ御定メノ如クデアアル 此ノ義聊モ疑ヒラ存  
 シテハナラヌ

### 下津磐根仁宮柱太敷立高天原仁千木高知

此處ハ

天孫降臨シ玉ヒテ都ヲ高千穂ノ峰ニ奠メ内裏ヲ御造營ナシ玉フ体デア  
 アル○下津トハ天上ト云ヘルニ對シテノ縁語ニテコハ磐根ト云ハン  
 枕言葉デアアル○磐根ハ堅固ナル意即チ祝言デアツテ萬代不易ノ國ト  
 云フ意義デアリマス○宮柱太敷立トハ宮ノ訓ノ(ミ)ハ御ノ字ノ意 總  
 ジテ人ヲ崇メ又ハ器物ナドヲ賞ムル時(ミ)ト云フ語ヲ遺フ 御鏡御太  
 刀御帶等ノ類是レデアアル (ヤ)ハ家デアアル 神代ヨリ天子ノ御殿ヲ(ミ  
 ヤ)ト申ス 今ニ至テ天皇ノ御子ヲ(ミヤ)ト申スモコレヨリ出タノデア  
 ル 上古ヨリ中古マデ 天子ノ御殿ト社トノ別チハナカツタノデス  
 ガ 敏達天皇ノ御代ニ至テ神ノ座社ト人ノ居處ト異ナル様ニ成リ乃  
 チ今ノ破風造リニナツタノデアリマス 彼ノ掛魚ハ水中ニ魚ノ棲ム  
 体デ之ハ火難ヲ遁ル、祝事デアアル 柱ハ(葉ヲ知ラズ)ノ訓デ真木デア  
 ル 太敷立ハ家居ヲ造ル制度ニテ日本書紀ニ宮造リノ制ヲ舉ラレ柱  
 ハ太ク板ハ廣ク厚クセヨト宣ヒテアリマス コレハ飾ラズニ成ルベ

ク質素ニシテ丈夫ヲ本トスベシトノ 皇祖天照大御神ノ御教ヘデア  
 リマス 宜シク此ノ御旨ニ副ヒ奉ラネバナラヌ  
 ○古歌ニ 宮柱下津磐根仁敷立天露毛曇良奴日乃御蔭哉  
 又柱ニ就テ三柱ノ口訣ガアリマス 曰ク天ノ柱ト國ノ柱ト心ノ柱ト  
 デアル 乃チ天ノ柱ハ四季 國ノ柱ハ政事 心ノ柱ハ本性ト此ノ三  
 柱ノ註釋ハ爰ニハ畧シテ措ク○高天原ニトハ既ニ講ジマシタ通り清  
 淨ナル地ニテ神明ノ留リ坐ス處 但シ此處ハ日向ノ大内ヲ指ス○千  
 木知高テトハ 千木ハ(チギル)ノ訓デアアル 千木ハ社頭ノ棟ノ上ニ行  
 儀正シク双ベ置テアル木ノ事デア決シテ一方へ片寄ツテハ居ヌ コハ  
 物ノ直グナルヲ表ハシテ示サレシモノデアリマス 今モ物ヲ掛ケル  
 秤リヲ千木ト申シマスノハ爰ニ基ケルノデアアル 借爰ニ片曾木ノ事  
 ガ出テキマセンガ 之ハ元ヨリ千木ニ添フベキモノデア千木ニ籠メテ  
 見ルノデアアル 片曾木ハ片方ソグ木トノ義デ 總テ勝男木トモ申ス

之ハ破風ノ上ニ打チ違ヒニシテ在テ物ノ飾リナク質朴ナルヲ表ハ  
 シテ示サレシモノデアリマス 之ヲ要スルニ千木片曾木ハ正直質朴  
 ラ象ドリシモノニテ天下ノ道ハ滿レバ闕クルモノナルガ故ニ ソラ  
 誠メン爲ノ御教ヘデアリマス○尙ホ片曾木ニ就テ昔ヨリ内ヲソグモ  
 ノト云ヒ外ヲソグモノト云フテ居ルガ必シモ内ヲソグ外ヲソグト定  
 マレル法ハナイノデアアル  
 夜や寒き衣や薄き片曾木の行合の間より霜や置くらん  
 ト之ハ此ノ片曾木ノ意ヲ 一首ニ籠メラレタノデアアル 中古ニ至テ  
 伊勢内宮ノ片曾木ハ内ヲソグ外宮ノ片曾木ハ外ヲソグト コレ中古  
 混亂ノ説ニシテ吾道ノ爲ニハ餘リ必要ノ理リモナイノデアアル 去レ  
 ドモ今内宮ヲ學ブ人ハ内ヲソグベシ 外宮ヲ學ブ人ハ外ヲソグベシ  
 イヅレヲ善キト一定シ難イノデアリマス○古歌ニ  
 片曾木乃内止外止仁替禮止毛千加伊波同伊勢乃神垣

ト内外イヅレニモアレ質朴ニスベシトノ意デアリマス○高知テトハ  
 千木片曾木ヲ高ク屋ノ棟ニ置テソノ正直質朴ナルヲ知ラシメ人々ヲ  
 シテ奢リヲ慎マシメントノ御教示デアリマス 人ノ胸モ家ノ棟モ事  
 理相同ジク質朴ナレバ無慾デアアル 無慾ナレバ清淨デアアル 人々此  
 ノ理ヲ胸ニ置テアヤナク安キニ從フ時ハ身治マリ家齊フコトハ火  
 ヲ見ルヨリモ明ラカデアリマス○正直 質朴 清淨之レヲ神道ノ三  
 徳ト名ヅク

**吾皇御孫尊乃美頭乃御舍仁仕奉天**

吾皇御孫ノ尊トハ

瓊々杵尊ノ御事デアリマス○美頭ハ水水如イト申ス義デ美クシイト  
 云フ古語デアアル 水ヲ美頭ト申スモ 水ハ不淨ノ物ヲ洗ヒ清ムルニ  
 依テ美頭ト宣ヒタノデアリマス○御舍ニノ御ハ例ノ稱美ノ語 舍ハ  
 (アリカ)ノ訓デアツテ(アリカ)(カ)ハ隠レノ略語即チ雨ニ隠レ日ニ隠レ  
 デアル(アラカ)(アリカ)同訓義デアツテ明ラカノ義ニ通ジマス 人ノ

住ム處質朴ト雖能ク掃除シテ清淨ニスレバ明ラカニナリマス 俗ニ  
 明ルクナリヌト申ス意 去レバ美頭ノ御舍ハ 質朴ニシテ清淨ナル  
 御殿ト云フ意義デアリマス○仕奉ヲトハ 天兒屋命ヲ始メトシテ諸  
 ノ神達 皇孫ノ尊ニ仕へ奉リテ忠勤セラレシトノ義アリマス  
**天乃御蔭日乃御蔭隱坐天** 天ハ雨ト訓通ズ是レ吾國古書ノ

法デアアル 彼ノ萬葉集ナドノ訓モ神書ヲ本トシテ書カレマシタカラ  
 斯様ナ体デアリマス ソモ舍ハ雨露霜雪等ヲ凌グ爲ニ建築セルモノ  
 ナレバコレ雨ノ蔭日ノ蔭デアアル 平易ニ云ハ、雨ヤ露ニモヌレズ炎  
 暑ノ日ニモ曝サレズニ安心シテ居ルコトが出来ルト申ス義デアアル  
 ○舍ハ畢竟善盡シ美盡ス爲ニアラズ 然ラバ何ゾ無用ノ草木ヲ費ヤ  
 シテ造化ノ神ノ力ヲモ願ミズ 造ノ神 化ノ神ノ意ニ背カンヤ 一  
 本ノ木モ空シクハ生ゼズ 皆人ヲ養フノ具デアアル 何ゾ獨リ美ヲ盡  
 シテ宜カラシヤ トハ惶クモ 皇祖天照大御神ノ大御心ニテ在ラセ

ラレ玉ヒタノデアアル　チレバコソ伊勢兩宮ハ今モ尙ホ萱葺デアリマ  
ス　萱ハ清淨ニシテ籠レル氣抜クル故病ヲ除ルトアル　供御モ三杵  
半ノ御定メニナツテ居ル、コハ後世驕リニ長ズルヲ防ギ玉フ御教誠  
デアリマス○一説ニ天ノ御蔭日ノ御蔭ヲ天翳ナド、註釋シテアルガ  
非デアアル

安國ヤスクコトタヒラガクシロシイサム登乎トクニ介久ケイキウ所知食シロシイサム

コレハ中津國ヲ領有シ玉フ意　所知食

ント斯ク云ヒ詰メマセンノハ却テ意味深長ニシテ後世ノ及バザル處  
デアリマス

### ○第三 群生犯罪之段

國中クニナカニ仁ニ成出ナリイデム天アメノ乃ナリ益人等ベキトクナリ加カ過ト於オ犯ト氣キ牟ム雜マ々マ乃ナリ罪ツミ  
事咎崇コトトガタカシ利リ

此ノ一段ガ抑モ人ニ於ケル罪ヲフモノ、根元デアツテコレヨリシテ

天津罪國津罪ヲ生ミ出スノデアアル　故ニ此ノ段ヲ意ル時ハ吾身ハ申  
スニ及バズ末世ノ子孫ニマデ天津罪國津罪ヲ及ボシマス　實ニ恐レ  
慎ムベキ處デアリマス○茲ニ群生トアルハ文字ノ如ク單ニ群ガリ生  
ル、人トノミ云ヘル意味デハナク　上下ヲ兼テソノ人情ヲ指サレタ  
ノデアリマス

國中クニナカニ仁ニトハ中津國トノ意委細ハ前ニテ述べタル通りデアリマス

成出ナリイデム牟ム成ハ成就ノ義　出イデンハ生レ出デノ義　即チ上下共ニ人ト成

リテ此ノ世ノ中ニ生レ出デシトノ意

天アメノ乃ナリ益人等ベキトクナリ加カ天ノトハ　人ハ天ノ一氣ヲ受ケテ生ル、モノナル

ガ故ニ天ノト置カレマシタ○益人トハ　此ノ國中ニ生リ出ル人ノ年  
々ニ多クナリテ　死スル人ノ生ル、人ヨリ少ナキガ故ニ彌人益シス  
トノ義デアリマス○神代卷ニ陰氣ハ物ヲ殺ス故ニ日ニ千頭チカウヲ縊ヒリ殺  
サン　陽氣ハ物ヲ生ズ故ニ日ニ千五百頭チカウヲ産マンチカウ（取）委シキ講義ハ彼

ノ卷ニ讓リマス  
**過犯** マヤチヲラシカナム  
氣牟

トハ覺エズシテ作ス罪ヲ過チト云ヒ過チト知リツ、犯  
スヲ罪ト云フ 罪ハ(積ミ)ノ訓ニ惡キ事ヲ積ム義ナリト説クハ一應ノ  
註釋デアツテ 更ニ委シク分解セバ 過チハ(危キコトヲ極ムル)ノ意  
犯スハ(ヲヲ掠ムル)ノ訓義デアル (危キコトヲ極ムル)トハ 道体コ  
レ人ノ根元ト云フ眞理ヲ知ラズ慎ミナキ時ハ言行共ニ情ニ任ス 此  
ノ我儘ナル情ヨリ移ル時ノ物ノ危キ事浮雲ノ如シ コレ危キコトヲ  
極ムルノデアル (ヲヲ掠ムル)トハ (ヲ)ハ陽德ニシテ明ラカデア  
常ノ人道ヲ知ラザルハ不明デアリマス 不明ニシテ物ニ悶キハ常ニ  
ヲヲ掠メツ、アルノデアル 犯モ過チモ共ニコレ慎ミナキ故ト知ラ  
ネバナラヌ

**雑々** クササナ

トハ品々ノト云フニ同ジ 草ハ千種トナ色々ノ草ガアル  
物ノ腐リテ土ト成リ草ト成ル故草ニ(クサル)(クサキ)ノ兩訓アリ○倍又

草ハ種々雑多ヲ意味ス 蓋シ人ノ性モ之ト同ジク陽ニ過グル者ハ慎  
ミヲ失ヒテ中ニ過ギ 陰ニ過グル者ハ節ヲ失ヒテ中ニ及バズ 共ニ  
中道ナラズ コレ天道人道ニ違フノデアル 君ニ仕ヘテハ不忠 親  
ニ仕ヘテハ不孝 師友夫婦兄弟共ニ恨ミアリ コレ性ノ過不及ヨリ  
起リテ雑多ナル罪咎トナルノデアリス

**罪事** ツミゴト

トハ藏ニ物ヲ積ミ置クガ如ク慎ミナク中道ヲ失ヒテ常ニ吾胸  
中ニ善カラヌ事ヲノミ積ミ置キ私心ノ作用テ外ニ發シ事ニ及ブカラ  
ソレデ咎メアツテ祟ラル、ノデアル 祟リハ即チ天ノ刑罰デアリ

**咎祟** トガムノリ  
利

トハ人ニ祟ラレ鬼神ニ祟ラル、ノデアル 常ニモ家ノ祟リ  
ナド、テ妖怪騷ギヲナスモノ往々アリマス 或ハ傳尸病トテ子孫ニ  
傳フル煩ヒト成リ 或ハ災難止マズシテ家ヲ破リ國ヲ破ルノ基キト  
ナル等ハコレ皆咎祟リデアリマス



○以上ヲ連結シテ簡易ニ之ヲ演ベバ 太古氣化ノ時代ニハ國中此處  
彼處ニ氣化シ生リ出デ、人ノ氣モ誠ニ温順ニテアリシガ 既ニ形化  
トナリテ人人ヲ産ムニ至リテハ 年年ニ人ノ數ヲ益シ種々ノ罪ヲ犯  
シテ咎累リヲモ受クル様ニナリシトノ意義デアリマス

### ○第四 天上罪之段

天津罪登波 畔乎放地溝於埋樋放地敷蒔串刺生

剝逆許々太久乃罪天津罪登波法別天

此ノ段ハ天災五穀不熟ノ時ノ祈禱ニ用キテ唱ヘマス 天上罪ハ 素  
戔鳴尊ノ 天照大御神ニ對シ奉リ天上ニテ犯セル罪ナルコトハ 神  
代ノ卷ニ詳カデアリマス 此ノ段ハ前ノ罪事ノ咎累リトアル段ニ雜ヘ  
テ見ネバナラヌノデアアル(口)○天津罪國津罪ハ中臣被三箇ノ大事ノ一  
ツニテ 一ツハ前ノ高天原ト 一ツハ末ノ氣吹戸主トデアアル

○上ノ段々 初ニハ降臨ノ群議既ニ決定シテ先ヅ中津國ヲ平ラゲ  
而シテ 天孫降臨シ玉ヒ 次ニハ皇居御造營ニ就テ千木片曾木ノ御  
教訓ヲ垂レ玉ヒ 又次ニハ益人ヲ悦バセ玉フト同時ニ自ラ罪ヲナシ  
咎累リノ理リアルヲ憚リ玉ヒテ之ヲ懲レミ玉ヒ 人々犯ス罪事ヲダ  
ニナサズバ安國ナルヲトテ ソガ安カラザルノ根元ヲ述べサセラレ  
而シテ天下萬民ノ罪ヲ 素戔鳴尊ノ罪ニ事寄セテ 懇口ニ御教ヘ  
示サレ玉フ

畔乎放地 (ア)ハ(アゼ)ノ下略 アゼハ田ニ水ヲ泄ヘンガ爲デアアル 即

チ早損豫防ノ爲ニ 田ノ周圍ニ低ク小サナル土手ヲ築キシモノデ(田  
ノクロ)トモ呼ブ 畔ヲ放チハ 此ノ(田ノクロ)ヲ破リテ水ヲ放チヤリ  
田ヲシテ枯渴セシメントスル所爲デアツテ 全ク人命ヲ斷ツト同ジ  
○此ノ所爲ハ恰モ人ノ亂淫ト同ジ意義デアリマス ソモ女交ハ子孫  
相續ノ爲ナル事申スモ愚カナレドモ 吾好色ノ任ニスルハコレ氣質

ノ爲デアツテ 決シテ性威ノ任トハ云ヘヌノデアアル 此ノ故ニ天命ヲ全ウスルコトガ出来ヌ

**溝埋** 溝モ又旱損ノ用意ニ地ヲ穿チテ水ヲ溜メ置ク處 コレヲ埋ムルハ 恰モ子孫ヲ斷滅スルガ如シ 是又大罪デアリマス

**樋放** 樋ハ篋ノ事デアアル 貯水池又ハ川ナドヨリ水ヲ引テ田ニ注グ水通シニテ コハ田ノ天トスル處 之ヲ損ズレバ天災甚シキニ依リ天津罪トハナルノデアアル

**敷蒔** トハ(シゲク蒔)ト云フ意 則チ人ノ一度種子ヲ蒔タルソノ上ニ重ネテ種子ヲ蒔ク事ニテ 斯クテハ先ニ蒔タルモ後ニ蒔タルモ役ニ

タ、ヌ 畢竟之ハ人ノ田ヲ奪ハン爲ノ所行デアリマス コハ人ノ平生食ヲ食リテ飽ガ上ニ尚ホ食フモ 吾腹中へ敷蒔スルト同ジ意デア

**串刺** 實ニ阜シキ心ト云ハネバナラヌ 又ハ故アル田ニ串ヲ刺ス事デアアル 昔トハ爭論ノアル田カ 又ハ故アル田ニ串ヲ刺ス事デアアル 昔

ハ田ノ札ヲ立ルト云フテ 田ニ異論アル時ハ 此ノ田蒔ルベカラズト立札ヲシタモノデアアル ソハ今時ノ擧論ノ様ナモノデ 而モ之ガ相互ノ誤解カラ出タ争ヒデハナク 一方ノ惡徒ガ故意ニ争ヒテ醸シテ 間ガヨクバ 他人ノ地面ヲ吾方へ取込マントスル所爲ト同ジ意味デアアル 喩へバ人ノ善事ヲ横取リシテ 吾手柄ニセント企ツルガ如キモノデアリマス

○右五ヶ條ハ天地ニ係リテソノ罪廣大ナルガ故ニ 天津罪ト申スノデアアル 此ノ段タゞ田ノ事ヲノミ云ヘル様ニ見ユレドモ 畑ニモ係リ居ル事ト見テ理解セネバナラヌノデアアル 夫レ米ハ土ノ味ヒデアツテ五穀ノ味ヒテ兼合ンデ居ル 故ニ食フモ飽カズ 茲ニ田ニ係ル罪ノ事ヲノミ舉ラレシハ 稻ニ總テノ穀類ヲ攝シテアルノデ 畑ヲ害スル者モ田ヲ害スル者ト同罪ナルコト 勿論ノ義デアリマス○偕又稻ハ(命チノ根)ト申ス訓デ 君臣共ニ命チヲ保ツハ稻ノ功デアリマ

ス 故ニ五穀ヲ害スル者ハ罪忽チ天ニ威ジテ天津罪トナルノデア  
生剝逆剝 生剝ハ鳥獸ノ皮ヲ生ナガラ引キ剝グ事 逆剝ハ殺シテ

後ソノ皮ヲ引キ剝グ事 委シキ義ハ神代ノ卷ニ讓ツテ措ク○凡ソ鳥獸  
ハ羽毛ヲ以テ身ヲ覆ヒ 人ハ衣服ヲ以テ身ヲ覆フ ソノ理リ相同ジ  
ク 故ニ人トシテ他人ヲ竹カシ 衣服ソノ他ノ所有品ヲ奪ヒ 甚シ  
キハ殺害ニ及ンデ物品ヲ奪ヒ取ルナドハ コレ生剝逆剝ノ所爲ト同

斷デアリマス  
許々太久乃罪 許々乃罪 許々乃罪 許々乃罪 許々乃罪 許々乃罪  
トハ許幾ノ罪ヲト云ヘル義ニテ 即チ數ノ多

天津罪 法別 天津罪 法別 天津罪 法別 天津罪 法別 天津罪 法別

斯様ニ數々ノ天津罪ヲバ 道理モテ事分ケ

○第五 國土罪之段

國津罪 止波 生乃 膚斷死 乃 膚斷白人胡久美己 加

母乎犯世留罪己加子乎犯世流罪母登子登犯世流罪

子登母登犯世流罪畜於犯世流罪昆虫乃災高津神

乃災高津鳥乃災畜仆死盡物世留罪許々太久乃

罪乎出 天牟

此ノ段ハ人ノ災時ニ用キテ唱ヘマス 國土罪ト申スハ 國土ニ出生  
セル人民自ラ天命ノ何タルヲモ恐レズシテ作ス處ノ罪デア  
生乃 膚斷死 乃 膚斷 生ノ膚斷トハ人ヲ打擲シテ身ヨリ血ヲ出ス  
事 死ノ膚斷トハ人ヲ殺害スル事 總ジテ國土ニ於テ喧嘩罪人ノ多  
キハ 國土ノ怪デアアル 人君上ニ坐シテ政ヲ知ロシ召シ玉フ 人愼  
マネバナラヌトハ 誰モ皆知ル處 而モ人ヲ傷害シ 人ニ傷害セラ

ル コレ一旦ノ事ニアラズ 必ズヤ先祖ノ罪カ自分ノ罪カソノ故ア  
 ラン 早クソガ理リヲ知リテ 根本ヨリ罪ヲ滅シナクテハナラヌ  
 少シノ及物ニテ不圖身ニ重傷ヲ負フ事モ 又故アリト知ラバ慎ムニ  
 至ラン 一念善ナル時ハ天心ト成リ 一念惡ナル時ハ妖怪邪氣ト成  
 ル 一息ノ間モ忽ガセニシテハナラヌノデアリマス

**白人胡久美**

白人ハ白癩 胡久美ハ黒癩 共ニ世ニ謂フ癩病ノ  
 事デアアル 此ノ罪ハ近クハ己ガ罪遠クハ先祖ノ罪ノ遺傳病トナツテ  
 代々子孫ニ及ボスノデアアル コレハ前ニ述べタル如キ罪ヲ犯シテ人  
 ヲアヤメシソガ報イニ依テ此ノ病ヲ受ケマシタノデ ソノ證據ニハ  
 全ク本心ニ立歸リテ 神明ニ祈願シ懺悔シテ謝罪シマスルト 天地  
 ハ感應ノ道理ナレバコレ等ノ業病モ治スノデアアル 彼ノ醫書ナドニ  
 モ天刑ノ病トアツテ百病中不治ノ病トシテ有リマスルノハ 天下ニ  
 貴重ナル人ヲ殺害スルカラソノ感應ニ依テ治サヌノデアアル 天ハ善

惡共ニ感ジテ賞罰アリトハ 蓋シ此處ノ謂ヒデアリマス○尙ホ白人  
 胡美久ハ病ノ最モ重キモノナルガ故ニ爰ニ擧ラレマシタノデ 餘病  
 ハ皆此ノ中ニ攝シテアリト知ラネバナラヌ コレ神書ノ風ニシテ講  
 談者ノ留意スベキ要點デアリマス

**己加母平犯世留罪**

トハ不孝ノ罪ノ事デアアル 此處モ吾國風ノ熟  
 語デアツテ 母ト云フ時ハ父モアリ コレ謂ハユル不言ノ言デアリ  
 マス 子ハ父母ヲ天トシテ仰ギ事フルガ道デアアル 然レバ不孝罪ハ  
 天道ニ背イテ居ル 凡ソ親ニ事ヘテ孝ナル者ハ君ニ仕ヘテ忠ヲ盡ス  
 故ニ母ト云ツテ父ヲダニモ云ハズンバ君父一体ノ理リアリテ父ハ  
 自ラソノ中ニアルノデアアル○總ジテ神道ノ畧語言葉ニ盡サズシテ却  
 テ意味極マリナク輕率ニ見テ誤解セヌ様一言注意シテ置キマス  
**己加子平犯世流罪** トハ不慈ノ罪ノ事デアアル 偕人トシテ而モ親  
 トナツテ慈愛ノ情ナキハ天理ニ叶ハヌ○勿論愛シ過ギ子ヲシテ情弱

母登子登犯世流罪

トハ不慈不孝ノ罪ノ事デアル 父ノ事ヲ云ハ

ザルハ前ト同ジク母ト云ヘル中ニ籠ツテ居ル 借爰ニ母ノ不慈子ノ不孝ヲ並ベテ舉ラレマシタガ 併シ子タル者如何ニ父母ノ不慈ニ遭ヘバトテ不孝ノ行ヒアルハ子タル道ニ背イテ居ル 然レバ罪ハ子ニ歸シマス

子登母登犯世流罪

トハ意義前ト同ジク母子共ニ惡人ニシテ罪ヲ

得ル事今日ニ於テモ多々アリマス 借又爰ハ例ノ神道ノ重ネ詞ニテ叮嚀反覆ノ意 或ル時ハ略シ或ル時ハ重ネテ言フハ 神道ノ法デアツテソノ中ニ深キ意味ノ存スルノデアアル

畜犯世流罪

トハ故ナク鳥獸ヲ慘殺スル罪ノ事デアアル 鳥獸中

殊ニ牛馬ヲ慘酷ニ取扱ヒ又ハ之ヲ殺スハ最モ大ナル罪デアアル ソモ牛馬ハ天命ノマ、ナルモノゾト 神代卷ニモ詳釋セラレテアリマス

牛馬ハ力大ナリト雖網ヲ取レバ三歳ノ小兒ニモ順ヒテ人ノ大ナル助ケヲナスモノデアアル 天照大御神ノ大御言ニモ 「牛馬ハ繩ニカ、ルヲ以テ穢レトスベシ」、ト仰セラレ賜ヒテアリマス 故ニ吾國ニテ牛馬ヲ食フ事ハ神慮ニ背イテ居ル 宜シク慎ムベキデアアル 斯クノ如ク牛馬ヲ始メ鳥獸ヲ慘殺スル事ハ 堅ク誠メラレテアリマスケレドモ 田畑ニ害ヲナス鳥獸ヲ殺スハ畢竟人民ヲ助クル爲デアアルカラコハ罪トナラヌノデアアル 古來鷹狩トテ鷹ヲ放チテ鳥ヲ捕リ 猪狩トテ田畑ヲ荒ス野獸ヲ捕ヘ 又狩ノ使トテ禽獸ヲ捕ヘナガラ國ノ安否ヲ觀察セシ事ナドアリシガ コレ等ハ只徒ラニナシタノデハナク皆故アツテ國家ノ爲ニナシタモノデアアル 國家ノ爲又ハ教理ノ爲ニハ時ニ貴重ノ人ヲモ殺ス事アリ 而モ罪咎崇リヲ受ケヌノミカ却テ賞譽ニ與カルト云フ事ハ コレ又現世一旦ノミデハナク 永ク未來ノ世ニマデ及ブト云フ理リハ 神佛二教共同一徹ニ説キ明サレテア

リマス 去レバ殺生モ謂ハユル時ト場合ニ依ル 凡ソ人ハ義理ヲ知  
 ルガ故ニ忠孝ノ爲ニハ命ヲ捨ツル事ヲモ厭ハネド 禽獸ハ義理ヲフ  
 事ヲ辨マヘヌカラ命ヲ惜ム事ハ 人ヨリモ甚シイ 去レドモ狩ヲシ  
 マセヌ時ハ 安キニ馴レテ恐ル、ト云フ事ヲ知ラズ 終ニハ人ニセ  
 マリ田畑ヲ荒シテ災ヲナスニ至ル 爰ヲモテ時ノ宜シキニ順ヒ狩獵  
 ヲナスハ 理リニ叶ヘルノデ 決シテ罪トナラヌノデアアル

**昆虫乃災**

昆虫モ飛虫モ物ニ災ストノ意 之ハ天津罪ヨリ國津罪トナレルニ  
 テ 吾爲ス處ノ邪氣ガ感ズルノデアアル 稻ノ苗ナドニ蝗虫ノツクモ  
 天地ノ邪氣ニ感ズルノデ コレ政ノ宜シカラザルヨリ起ル 故ニ此  
 ノ時祓ヲナセバ害虫シヅマルノデアアル 或ハ又毒蛇ナドニ出逢フ時  
 已ガ心慎ミテ之ニ對スレバ 身ニ害毒ヲ受ケヌノミカ此ノ時縱ヒ此  
 ノ毒蛇ヲ撲チ殺シテモ 祟リヲナシ得ヌモノデアアル 此ノ理リハ

素戔鳴尊ノ大蛇ヲ退治シ玉ヒシ當時ノ御事ト 日本武尊ノ御事蹟ト  
 ヲ 對照シ奉リ見バ 慎ミノ如何ニ依テ 祟ルト否トガ了解シ得ラ  
 ル、事ト信ジマス 總ジテ地ヲ踏ムニモ 微少ノ虫モ徒ラニ殺サヌ  
 機心ガケテ慎マネバ 天津罪ト成リテ終ニ復國津罪ニ遇フノデアアル  
 ○世間或ハ此ノ段ノ講義ヲ見テ 迷信杯ト冷評スル者アルカモ知レ  
 ヌ 萬一左様ノ人アラバソハ既ニ天津狐ノ邪氣ニ感ジ居ル者ト見做  
 スヨリ外ナイノデアアル ○抑モ正信迷信ト云フ如キ問題ハ眞理ニ達シ  
 タル上ナラデハ 容易ニ斷言シ難キモノデアリマス ○尙ホ此ノ段ニ  
 限ラヌ 本書中何レノ處ニモアレ慎ミナク妄評ヲ下スモノアラバ  
 ソハ神慮ニ背ケル罪人ト豫斷シテ置キマス

**高津神乃災**

高津神ハ雷ノ事デアアル 雷ハ(イカル土)ト申ス事 雷  
 ハ本道体ノ神ト云フデアアル 委細ノ眞理ハ龍雷之傳ニ依ラネバ述ベ  
 盡ス事ハ出来ヌ 凡ソ萬物ハ龍雷ニ依テ生活シツ、アルノデアアル

然ラバ即チ龍雷ハ萬物ノ父母デアアル 此ノ理リアルニ拘ハラズ雷ノ  
 災ニ遇フハコレ一種ノ天刑デアツテ罪ノ大ナルモノト云ハネバナラ  
 ヌ 故ニ雷怒テ音ヲナス時ハ恐レ慎ミ寢居シ者モ起キテ端坐セヨト  
 ハ彼ノ儒道ノ教ヘヲ待タズシテ遠キ昔既ニ此ノ段ノ一文ニ於テ神明  
 之ヲ御教訓遊バシ玉ヒテアリマス 而シテ又此ノ祓ヲ唱フル時ハ高  
 津神ノ災ニ遇フ事ナシト云フ此ノ段ノ要旨ガ 彼ノ佛教法華普門品  
 ノ偈ノ文ニ符合シ居テ而モ 印度ニ出現セル 佛祖ヨリ遙カ以前ニ  
 皇祖天照大御神ノ御教ヘ置カレ玉ヒシヲ見テモ 全世界中教ヘノ  
 本津國ハ 吾大日本帝國デアアルト云フ所以ガ明カニ悟ラル、ノデア  
 ル ソノ證トスベキ書ハ吾神祇道統家ニ相傳セル神典數十卷デアアル  
 ト云フ事ヲ 謹デ天下ニ報告シテ置ク

**高津鳥乃災** 高津鳥ハ天狗ノ事デアアル 即チ天狗ノ災ニ遇フト云  
 フ意 異國ナドデハ天狗ハナキモノト云フテ居ルガ 吾國デハ必ズ

アルモノトシテ サテコソ此ノ段ニモ説キ示サレテアルノデアアル  
 天狗ハ技藝等ニ就テ人ノ驕慢心增長セル場合ニ來ツテ災ヲナスモノ  
 デアツテ多ク深山幽谷ノ中ニアリト云フテアル 即チ邪氣デアアル  
 故ニ人若シ斯カル處ヲ過グル時ハ 此ノ祓ヲ唱ヘテ災ニ遇ハヌ様心  
 掛クベシトノ御教ヘデアリマス 彼ノ狐狸ナドハ愚痴ノ者ニ災ヲナ  
 スガ天狗ハ利根過グル者ニ災ヲナシマス 此ノ災ハ必ズ不敬不遜ヨ  
 リ起ルノデアアルカラ 人タルモノハ慎マネバナラヌ 倭今日人々ガ  
 我レ獨リ惻口振リテ高慢ナ舉動アル者ヲ指テ彼レハ天狗ニナレリナ  
 ド云フガ 之ハ元此ノ段ノ真理ヨリ起リ ソレガ何ツシカ戯レ言ノ  
 様ニ云ヒ傳ヘ聞ナサル、ニ至リシモノト想像スルノデアアル○高津神  
 高津鳥ノ災ハ天津罪ト成リテ終ニ又國津罪トナリシモノデアリマス  
**畜仆死** トハ吾家ニ養フ處ノ六畜即チ牛馬鶏ノ類ノ俄カニ病ヲ獲テ  
 仆レ死スル事デアアル コレ等畜類モ吾家ノ眷屬デアリマス 然ルヲ

ソノ家ノ主人ノ積惡ノ故ニ邪氣家内ニ充チコレニ感ジテ罪畜類ニ  
 マデ及ブト云フ事ハ最モ恐ルベキ義デアリマス  
**蠱物世留罪** 蠱物ハ咒咀ノ事デアアル 噫シテ人ヲ誹リ陰デ惡ムモ

一種ノ咒咀デアアル 斯ク云ハハ人皆此ノ罪アランカ ソモ人トシテ  
 人ヲ咒咀スルト云フ事ハ元ヨリ有ル間敷キコトデアアル 何ントナレ  
 バ人ヲ咒咀スルハ自身ヲ咒咀スルノデアツテ影響ノ如ク其ノ罪已レ  
 ニ歸スルカラデアアル 縱ヒ先祖ノ積善ニ依テ暫クハ免ル、事アリト  
 モ必ズ子孫ニ及ブノデアアル 去レドモ世ニハコレ等ノ理リヲ知ラズ  
 宜シ人ヨリ説キ示サレテモ疑ヒテ信ゼズ吾氣質ノ任ニ時ニ或ハ怨ミ  
 ノ念募リテ人ヲ咒咀スル者モアラン 貴賤共ニ人ニ咒咀セラル、事  
 モアラン 然ル時ニ此ノ被ヲ唱フレバソノ災身ニ及バズシテ遁ル、  
 事が出來ルノデアアル 若シ又我レニ人ヲ惡ムガ如キ念慮起ル事アラ  
 バ 直チニ此ノ被ヲ唱ヘヨ 邪念忽チニ散ジテ罪咎トハナラズ

**許々太久乃罪出** 天牟

許々太久ハ前段ニモ見エマシタ 許々  
 太久ノ罪ヲトハ 數々ノ罪事ヲ心ニ毛頭隠ス事ナク打チ顯ハシテ歎  
 ク意○出シテントハ 吾心ニ惡シキ氣象ノ伏在セルヲ探リ出シテ以  
 後ヲ慎ムベシトノ意デアアル

○總ジテ國家又ハ自身ノ不善ニ依テ來ル天津罪國津罪ハ決シテ遁ル  
 ル事ノ出來ヌモノデアアル 今此處ニ舉ラレシ數々ノ災若シ吾身ニ現  
 ハレ來ル事アラバ 直チニ此ノ被ヲ唱ヘテ念ジソガ罪咎ヲ遁レ 而  
 シテ以後ヲ能ク慎ムベシトノ御教訓デアリマス

○第六 被具之段

如此出 天波 天津宮事 乎 以 天 天津金木 乎 本打切  
 末打斷 豆 千座 乃 置座 仁 置足 波之天 天津菅曾 乎



### 本蒨斷末蒨切 豆 八針仁取辟 豆

此ノ段ハ祓ノ具ノ段ト申シテ神ヲ祭ル道具立ノ段ト云ヘル義デア  
ルコレハ罪ヲ得テ人タル道ヲ失フ者ヲ憐ミ玉ヒ罪ヲ贖フテ本然ニ歸  
スルノ便ヲ教ヘ示サレ玉ヒタノデ 語ヲ換ヘテ云ヘバ心ノ邪慾ヲ掃  
フ事ヲ事相ノ上ニテ教ヘンシテ神明ノ本性ニ歸ラシムルノデア  
ル

如此出

天波

トハ上ノ段ノ義ヲ受ケタル語ニテ則チ斯様ニ諸ノ罪

天津宮事 以

天津宮ハ天津神ト云フニ同ジ 宮ハ即チ神ノ

坐ス處ナルガ故デア  
ル 事トハ言ト云フニ同ジ 文字ニハ係ハラズ  
訓ヲ用ユルノデア  
ル 去レバ天津宮事ヲ以テハ天津神ノ御言バヲ以  
テトノ義デ 約メテ云ヘバ神勅ヲ以テト申ス義デア  
ル○偕又此ノ段  
ハ天津神ヲ祭ル段デア  
ルカラ 天津宮事ヲ以テトアル此ノ宮事ヲ神

事ノ義ニモ取ラネバナラヌ 神事トハ申スマデモナク神明ニ捧ゲ物  
ヲシテ御祭リヲスルノデア  
ル 然レバ則チ此ノ一文ハ 天津神ノ御  
言バヲ以テ御教ヘ示サセ玉フ如クニ人々許々太  
久ノ罪咎ヲバ此ノ祓  
モテ打チ掃ヒ身心共ニ清淨ニナツテ 天津宮事即チ神事ヲ執リ行フ  
ベシトノ意義デア  
ル○但シ事理調ハザルハ神事ニアラズト御教ヘ示  
サレ玉ヒテアリマス

天津金木

トハ天津ハ例ノ稱美ノ語デ物ヲ貴ム意 金木ハ本心

清淨ノ姿デア  
ル 先ヅ金ハ西方デア  
ツテ白色 此處ハ陰ニ取ルカラ  
白和幣デア  
ル 木ハ東方デア  
ツテ青色 此處ハ陽ニ取ルカラ青和幣  
デア  
ル 去レバ金木ハ東西ノ幣帛ノ事デア  
ツテ日月ニ象ドル 幣ハ  
(ニギテ)ト讀ム幣ハ手ニ握ルカラデア  
ル 東西ヲ握レバ南ト北ト自ラ  
ソノ中ニ籠ツテ居ル 然レバ即チ天地ヲ掌ノ中ニ握ルノデア  
ツテ天  
地ト吾魂魄ト同一体ト成ルノデア  
ル 斯クノ如キ理由アツテ青白ノ

幣ヲ神明へ捧ゲ奉リ而シテ御祭リヲスルノデアリマス  
**本打切末打斷** 豆 トハ祓ノ申ノ本ト末トヲ切り斷チテト申ス義

ニテ 本ト末トヲ去ツテ中ヲ取ルノデアル 中ハ即チ一氣一理デア  
ツテ萬物皆是レヨリ出デ來ルノデアル 故ニ中ニ合フハ即本心ニ歸  
ルノ意デ 委シキ義ハ中臣ノ字義講演ノ處ニ擧テアリマス

**千座乃置座仁置足** 波之天 千ハ數ノ極 座ハ庫ノ義 千座ノ置

座ハ千座置八座置トテ神前ニ供物ヲ捧ゲ置ク處即チ祓ノ具ノ置キ處  
デアル○置足ハシテトハ 物足ハシメテトノ義デ身分相應ニシテト  
ノ意 即チ吾ナセシ罪ノ贖ヒ物ヲ身ノ分限ニ順ヒテ神前ニ捧ゲ而シ  
テ罪ヲ謝セヨトノ意義デアル コレガ後世罪人ノ科料ヲ出スコトノ

本デアリマス  
○以上ノ趣意ヲ約言セバ 彼ノ金木ヲ神明ニ捧ゲ神供ヲ奉リテ一身  
ノ罪科ヲ申シ出此ノ後ハ斯カル罪科ヲバ必ズナスマシト誓ヒ過ギニ

シ罪科ハ偏ヘニ許容シ玉ヘト祈リ申スノデアル  
**天津菅會** 乎 菅會ハ茅ノ事ニテ古ヘ神事ニハ必ズ用キシモノデア  
ル 菅會ノ事ヲ儒道デハ茅ト云ヒ佛道デハ吉祥草ト云フ 儒佛共ニ

用キテ居レドモソノ用ユル所以ハ未詳デアル 吾神道ニ於テハ中臣  
祓八箇ノ大事ノ一ツトシテ別傳ニナツテ居ル

**本荊斷末荊切** 豆 トハ前ノ理リト同ジク中ヲ用ユルノ意

**八針仁取辟** 豆 八針トハ八方ヲ指テ云フ 取辟テトハ取リサバイ

テトノ義 蓋シ爰ハ金木菅會ヲ八ツニ取リサバキテ八方ノ諸神ニ捧  
グ而シテ御祭リヲスル事デアル ソモ祓ノ具ハ事デアル 事ハ形チ

ニ現ハスヨ云フ 形チノ成就ハ八方ニテ定マル 針トハ細カニ分ク  
ルト云フ意味モテ書カレ玉ヒタノデ 如何ニ少分ノ物ニテモ取リ辟

テ分チ針ノ様ニシテ八方ノ神々へ供へ奉レトノ義デアル コハ前ニ  
モ述ベシ如ク神明へ物ヲ捧グルニハソノ人ノ身分相應ニシテ捧ゲネ

バナラヌトノ意義デアル 神明ハ非禮ヲ受ケズ 唯過不及ナキ様ニ  
スベシトノ御教示デアル 依テ中ト有リマス

### ○第七 太諄辭之段

天津祝詞 乃 太祝詞 乃 事 於 宣 禮 如此宣 羅波

此ノ段ハ最モ大切デアル 抑モ祝詞トハ法ノ言ト申ス義デ 正シク  
シテ道ニ叶ヘル事ヲ神明ハ申シ上グルノデアル 然ルニ依リ神明へ  
申シ上グル時ハ 吾天心ニ立チ歸リ私モナク慾心モナク正真正路ヲ  
旨トシテ認ム 之ヲコン天津祝詞ノ太祝詞トハ申スノデアル 總シ  
テ人ニ言フニモ吾心ニ誠ナケレバ人諾ガハズ 況シテヤ神明へ申シ  
上グルニハ目出度神ノ納受マシマス筋ヲ以テ申シ上ゲネバ決シテ威  
應ノアルベキ道理ハナイノデアル 愚痴ノ者ノ往々我身勝手ノ事ヲ  
神明ニ祈願シテ神威ヲ濫シ居ルガ實ニ慨歎ノ至リデアリマス

天津祝詞 乃 太祝詞 乃

トハ一應ハ天津祝詞ハ天津神へ申シ上

グル事 太祝詞ハ國津神へ申シ上グル事ト説クモ 再應ノ義ハ中臣  
祓五箇ノ大事ノ中ニ於テ述ブル事トナツテ居ル

事 於 宣 禮

事ヲトハ 吾祈リ願フ事ヲデアル○宣レトハ 當ニ理リ

ニ合フ言バヲ以テ述ベヨトノ御教示デアリマス

如此宣 羅波

トハ例ノ重ネ詞ニテ斯様ニ事理ヲ整ヘテ天神地祇ニ

申シ述ブル上ハ 神明モ定メテ納受坐シテ罪咎ハアルマジトノ意  
乃チ次ノ段ヲ起スノデアル

### ○第八 天神地祇感應之段

天津神 者 天磐戶 於 押開 幾 天八重雲 乎 伊豆 乃 千

別 仁 千別 天 所聞食 牟 國津神 波 高山 乃 末短山 乃

末仁登利坐豆高山乃伊惠理短山乃伊惠理於撥別豆所聞食牟

此ノ段ハ天神地祇感應之段ト申シマス 蓋シ感應トハ諸神祝詞ヲ聞  
コシ食テ納受シ玉フノ義デアアル

天津神者天磐戸於押開幾 天津神トハ天津神殘ラズヲ指ス○

天盤石ハ神殿ノ事デアアル 即チ神殿ノ御扉ヲ押シ開キ玉フトノ意

天津神坐ス處ノ盤石ノ如キ御扉人カヲ以テハ假令千人萬人ニテモ開

ク事能ハザレド一人ノ真心即チ天津祝詞ヲ以テセバ 容易ク開ク事

ヲ得トノ意義デアアル 之ヲ誠ノ至リヲ語ニ顯ハシタモノデアリマス

天八重雲乎伊豆乃千別仁千別天 天八重雲ハ天津神ト云フ

縁ノ語デアアル○伊豆ノ千別ニ千別テトハ 道分ケ道分ケテトノ義ニ

テ 第一段ニアルト同意義デアリマス

所聞食牟

トハ祝詞ノ意味ヲ聞コシ食シ 神明納受シテ譽メ玉ハ

國津神波トハ國津神殘ラズヲ指ス

高山乃末短山乃末仁登利坐豆

短山ト書カレマシタノデ 高山短山ハ大山小山ト云フニ同ジク即チ

大小ノ神社ト云フ意義デアアル○末トハ頂キヲ指ス 蓋シ山ハ陰中ノ

陽ナレバソノ中ヨリ進ミ出デ、件ノ祝詞ヲ聞コシ食シ玉フ形チデア

リマス

高山乃伊惠理短山乃伊惠理於撥別豆所聞食牟

理ハ神垣ノ事 イクヘニモナリテアル宮居ト申ス意味ニテ即チ神ノ

家居デアアル○撥別テトハ社頭ノ御座御戸帳瑞籬ナドヲ 神明出御マ

シマス時 御手ヲ以テカキワケ玉フト云フ形容詞デアアル

○抑モ此ノ一段ハ 吾ニ誠アリテ祝詞ヲ奏スル時、諸ノ神達八方ヨ

リ一社へモ將又自己へモ降臨シ玉ヘルソノ御有様ヲアリアリト拜シ奉ルガ如クニ顯示セラレタノデアアル 若シ之ニ反シ吾ニ邪マナル心兆サバ 神明忽チソノ處ヲ去ツテ直チニ惡鬼邪靈ト入り代ハルノデアアル コハ些カニテモ真理ヲ窺ヒシ人ノ認メテ以テ常ニ誠慎シツ、アルノデアアル 故ニ苟モ神ニ仕フル者ハ吾氣質人慾ノ爲ニ本心ヲ奪ハレヌ様自ラヲ警誡セネバナラヌ

○第九 譬喻之段

如此所聞食 罪 云罪咎 不在 科  
 戸 風 天 八重雲 吹放 事 如 朝 御霧  
 夕 御霧 朝風夕風 吹掃事 如 大津 邊  
 仁居 大船 舳綱解放 地 艦綱解放 大海原

押放 津事 乃 如 彼方 屋 繁木 加 本 乎 燒鎌 乃 敏鎌 於  
 以 打掃事 乃 如 久

此ノ段ハ譬喻之段又軍政治要之段ト申ス 譬喻トハ天地人心共ニ譬ヲ以テ被フ事ヲ教ヘ示シ玉ヒタノデ 謂ハユル天人合一ノ意義デア  
 ル○但シ軍政治要ノ義ハ末ニ於テ述ベシ  
 如此所聞食 罪 云罪咎 不在 止  
 上ノ義ヲ受ケテ下ヲ起ス語デアアル 斯クノ如ク天地ノ神々吾本心ヨ  
 リ出デシ祝詞ヲ 天ノ盤戸ヲモ押シ開キ 高山ノ伊惠理短山ノ伊惠  
 理ヲモ撥別ケテ聞コシ食シ納受シ玉フ上ハ最早罪ト云フ罪咎ト云フ  
 咎ハアラジトノ意義デアリマス 尙ホ本心ニ立歸レバ 災難モ來ラ  
 ズ 病モ受ケズ コハ天地ノ神明影響ノ如ク守ラセ玉フ故デアアル  
 科 戸 風 天 八重雲 吹放 津事 乃 如 久  
 科 戸 ノ 風 ト ハ

品々ニ吹き出ヅル風ト申ス意　コハ風ハ八方ヨリ吹ク故デアアル　戸  
 トアルハ戸ノ尾ノ口ヨリ出ヅトノ意デ即チ風ノ吹き出ヅル處ヲ指タ  
 ノデアアル　風ハ即チ人ノ息ト同ヲ　土發動シテ風トナルトアツテ風  
 ハ地ノ息デアアル　息ハ(イキル)ノ秘訓デ　人ハ命ノアラン限リ　天地  
 ハ天地ノアラン限リアルモノトノ訓義デアアル　風ノ神靈ハ級長津彦  
 命級長戸邊命ニテ大和ニ在ル龍田神社ハ此ノ神ヲ祭リシモノデアアル  
 コレ物アレバ必ズ靈アリトノ真理ニ依テ祀ラレマシタノデ委シキ  
 説明ハ神代卷ニ讓ル○天八重雲トハ　雲ハ地氣ノ昇レルモノ　八重  
 雲ハ雲幾重トモナク群ガリ集フ体デアアル○倍此ノ一文ハ科戸ノ風ノ  
 八重雲ヲ吹き拂フテ晴天トナスガ如ク吾心ノ罪咎ヲ被フテ心清淨ニ  
 ナルノ義ニ喩ヘラレタノデアリマス

**朝乃御霧夕乃御霧** **朝風夕風** **吹掃事乃如久**  
 御ハ助字デアアル　霧ハ陰陽ノ氣亂レテ霧トナルトアツテコレ天地ノ

御霧ノ

不淨デアアル　乃チ朝ニモ立チ夕ニモ立チテ日月ノ光リヲ覆フ　朝  
 夕ニ立ツ霧ノ間ハアダ輕ケレドモ漸々ニ濃クナリテ雲トナレバ晴レ  
 難ク終ニハ風雨トモ變ズルノデアアル　去レドモ最初僅カバカリノ中  
 ニ朝風夕風モテ吹き掃フ時ハ麗カナル日ノ光リ清ラカナル月ノ光リ  
 ヲモ見ル事が出来マス　此ノ道理ニテ人々ノ心モ朝ハ朝ノ事ニツキ  
 夕ニハ夕ニノ事ニツキ僅カヅ、ノ情起ル事舉テ計ヘ盡シガタク終ニ  
 ハ心亂レテ霧ト成リ雲ト變ジテ胸中ヲ塞ギ己有ノ神明ヲ失フニ至ル  
 爰ヲモテ朝風夕風ノ吹き掃フ事ノ如クニ朝ニ夕ニニ吾胸中ニ立ツ  
 霧ノ妄念ヲ被フベシトノ喩ヘデアアル　斯ク被フ時ハ無情ノ情無心ノ  
 心常ニ中ツ瀬ニ留マル(口)○朝風夕風之ヲ太陽ノ被ト申シマス

**大津邊仁居留大船乃舳綱解放** **大津邊仁居留大船乃舳綱解放** **豆大海原仁押**  
 放津事乃如久

大津ノ邊ノ津ハアツマルノ略語　大津ハ

大湊ト云ハンガ如シ 邊ハ海邊デアアル 去レバ大津ノ邊ハ船ヲ輻輳  
 セル大イナル海邊ト云フ意義デアアル○倍此ノ一文ハ太陰ノ祓ト申シ  
 テ人々情慾邪念ノ爲ニ繩ナクシテ身心ヲ縛サレツ、アルハ 恰モ大  
 津ノ邊ニ繁ガレ居テ自由ニ動ク事モナラヌ大船ノ如キモノデアアル  
 然ルニ今神道加持ノ徳用ニ依テ 罪咎ヲ祓フ事ヲ得ルハ 此ノ大船  
 ノ舳網艦綱ヲ解キ放チテ大海原ニ押シ放チ而シテ順風ニ任セタラン  
 ガ如キモノナリトノ喩ヘノ意デアリマス

**彼方屋繁木加本平燒鎌乃敏鎌於豆打掃事乃如久**

此ノ一文ヲ軍政治要之段ト申シマス 蓋シ敵軍敗走シテ世治マル  
 ノ要文ト云フ意義ナランカ 日本書紀景行紀ニ 日本武尊東夷征  
 討ニ向ヒ玉フ時 御姨倭姫命ヨリ天叢雲ノ劔ヲ授カリ ソヲ帶ビ  
 玉ヒテ駿河ノ國マデ到ラセ玉フ時ソノ國ノ賊徒タバカリテ 尊ニ  
 狩リヲス、メ風烈シキニ乗ジテ風上ヨリ葦野ニ火ヲツケ 尊ヲ燒

討シ玉フ 火勢甚シク ソノ時 尊此ノ段ノ一文ヲ唱ヘツ、天叢  
 雲ノ劔ヲ取テ敵ノ方ヘ投ゲ玉ヒケレバ 劔自ラ草ヲ薙テ敵陣ヲ敗  
 リ御身ニ恙ナキ事ヲ得玉フ コレヨリ此ノ寶劔ヲ草薙ノ劔ト稱シ  
 奉ルノデアアル 此ノ所以ニテ後世軍ニ臨ム時ハ此ノ段ノ一文ヲ唱  
 フルノデアリマス

彼方ヤトハ遠方ノ事デアアル 遠キヲ舉グレバ近キハ自ラソノ中ニ籠  
 ッテ居ル○繁木トハ草ノ事デアアル 即チ草ノ茂レルヲ云フ 木トア  
 リテモ 草木ノ木ノ義デハナク(シゲリキ)ナド、書ク語ノ助ケ字デア  
 ル○燒鎌ノ敏鎌ハ燒乃ノ銳利ナル鎌ト云ヘル義デ俗ニ切レ味ノヨキ  
 鎌ノ事デアアル○倍此ノ一文ノ喩ヘハ 遠近ノ野原ニ生イ茂レル草々  
 ヲ燒鎌ノ敏鎌ヲ以テ薙ギ掃フ様ニ 吾腹ノ中ニハビコレル邪念ノ草  
 々ヲ 吾本心ノ敏鎌ヲ以テ薙ギ掃フベシトノ意義デアアル○而シテ又  
 天地ノ中ニ邪氣(敵)切リニ來リテ物ノ障リヲナス時ハ 天命ノ入握ノ

劔ツルギヲ以テ打チ掃ヘバ 邪氣退散シテ清氣トナルトアル 故ニ八握ノ劔ハ十種ノ神寶ノ第三ニ置カレテアリマス 尙ホ註ニ勇氣トアルハ金氣ノ事デアツテ此ノ理リハ十種ノ神寶ノ相傳口訣ニ依ラネバ了解シ難キ事ト思ヒマス

○第十 德化利生之段

遺禮留罪波不在止 祓賜比清賜事於高山乃末短山乃末與利佐久良谷仁落瀧津速川乃瀬仁坐須瀨織津比咩止云神大海原仁持出奈牟如此持出那波荒塩乃塩乃八百道乃八塩道乃塩濃八百會仁坐須速開都比咩登云神持可可牟吞天牟如此

可可牟吞豆波氣吹戸仁坐須氣吹戸主登云神氣吹放豆牟

此ノ段ヲ德化利生ノ段ト申シマスノハ 吾身ニ神德具備シテ物ニ觸ル、處自ラ道ノ中ニ合ヒマスカラ 物ニ感ズル毎ニ和育ヲ得萬ノ事一トシテ利アラズト云フ事ナシトノ意義デアリマス

遺禮留罪波不在止 トハ前段ノ譬喩ノ如クニ諸ノ罪咎ヲ打チ掃ヒテハ 最早殘レル罪咎ハ消滅シテ本然ニ歸セリトノ意

祓賜比清賜事於 トハ上古ノ文法デ 上下ニ通ジテ書カレマシタ コハ祓ノ肝要トスル處デアル○ソモ此ノ一文ヲ古來善言美詞ト稱シテ 天地ノ神明吾等ニ代ツテ罪咎妄念ヲ祓玉フノデアアル 必シモ自己ノカトノミ思フテハナラヌ

高山乃末短山乃末與利佐久良谷仁落瀧津

總ジテ此ノ段



ハ造化ニカケテ見ナクテハナラヌ 何ントナレバ天地ニ成ノ徳化利  
 生ノアル事ハ見易クシテ悟リ易イカラデアアル○高山短山ハ大山小山  
 ノ事 末トハ山ノ頂上ヲ指ス○佐久良谷トハ花咲谷ト云ハンガ如シ  
 佐久ハ花咲クノ義 良ハ助語デアアル 去レバ佐久良ハ春ノ花ノ總  
 名デアリマス 今櫻木ヲ(サクラ)ト呼ビ居ルハ春ノ花ノ中美シキ事最  
 上第一ナルガ故デ 喩ヘテ云ハハ 祖師ハ日蓮ニ 大師ハ弘法ニ占  
 有サレシ類ヒデアアル○落瀧津トハ瀧ヘ花ノ散リテ落ツル体ニテ 瀧  
 津ハ速川ノト云ハン縁ノ語デアアル○偕此ノ一文ノ要旨ハ 彼ノ大山  
 小山ノ頂キニ咲ク花ノ散リテ谷川ヘ流レ落ツル体デアツテ ソシテ  
 物ノ早キ体デアアル コハコレ天命ヲ盡シテ速ニ一氣ニ歸スル道理ヲ  
 示サレタノデアアル 此ノ故ニ人モ美シク潔ヨク天命ヲ盡シテ一生ヲ  
 終ル時ハ速ニ一氣ニ歸シマス 然レドモ邪念アレバ佐久良谷ニハ散  
 ラズ 即チ一氣ニ歸ス事叶ハズ 終ニ邪靈妖怪ト成リテ深山幽谷ニ

盤居スルニ至ルノデアアル

**速川乃瀨仁坐瀨織津比咩云神大海原仁持出奈牟**

○速川トハ速キ流レノ川ト申ス義デアアル 凡ソ始メアルモノハ必ズ  
 終リアリデ 速川ハ天命ノ終リノ場即チ本源ノ一氣ニ歸ヘル中路デ  
 アル 命終レバ落瀧津ト直チニ一氣ニ歸ヘルソノ處ガ速川デアアル  
 人ノ死ヲ(マカル)ト云フモ(真ニ歸ル)トノ訓義ニテ人々ソノ職分ヲ遂ゲ  
 ズバ天ノ一氣ニ歸ヘル事ハ出来ヌ 人ノ精ハ星デアアル 星ニ歸ヘル  
 事ナラズシテ邪氣妖靈トナルノデアアル○瀨織津比咩トハ(川ノ瀨ニ居  
 リ住ム)ト申ス義デ織リト居リ同訓ニシテ文字ニハ拘ハラズコレ神書  
 ノ風デアアル 瀨織津比咩ハ内宮荒祭神ノ御事ニテ能ク諸ノ悪キヲ拂  
 ヒ玉フ 假令バ人ノ不忠ヲ拂ツテ忠ナラシメ 不直ヲ拂ツテ直ナラ  
 シム 此ノ神萬山ヨリ流レ落ツル塵芥ノ不淨物ヤ 地上ニアル凡テ  
 ノ不淨物ヲ 悉ク大海原ヘ押シ出シテ本源ノ一氣ニ歸セシメマス

此ノ神ハ小戸ノ祓ノ時ニ化生シ玉ヒシ神ニテ水ノ靈即チ水神ノ御事  
デアリマス

**如此持出**

那波

トハ上ノ義ヲ受ケテ下ノ義ヲ起ス語デアル

**荒鹽**

乃

**八百道**

乃

**八鹽道**

乃

**鹽濃**

乃

**八百會**

仁坐須

トハ

**速開都比咩**

登云神

トハ月ノ神又ハ水門ノ神トモ申ス

即チ

海ノ靈神デアル

速秋都彦ハ

太神宮ノ別宮瀧祭ノ御神

速秋津比咩

ハ並宮ノ御神ニテ

天地間ニアラユル一切ノ悪キ事ヲ消滅シ玉フ神

靈デアル

則チ山ニテ袖ガ伐リ出ス材木薪ナドノ木屑又ハ木ノ葉木

ノ花ノ散リ落チテ積レルガ朽チ 田畑ニ在テハ五穀ノ壳野菜ノ類

ソノ他ノ品々塵芥ト容タヲ變ジテ 春秋ノ風雨ノ爲ニ彼方ヘ流レ此

方ヘ流レ 彼處ノ湊此處ノ湊ト 鹽ノ八百道ヨリ落チテ大海ヘ流レ

込ム ソレヲ速開津比咩ガ 鹽ノ八百會即チ水門ニ坐シテ 恰モ人

ノ口ヲ開キテ吞ンデ腹ノ中ニテ消化サスガ如クニ 大海ノ口ヲ開キ  
テ一吞ニ吞ンデ大海原ノ中ニテ悉ク消化サセテ一氣ニ歸ヘシ 而シ  
テ時ニ大海デ魚鼈ノ腹ヘ入りテ養ヒト成リ 天地ノ間ニテハ草木等  
ヲ肥ス コレ等ハ皆此ノ神靈ノ御功作デアリマス  
**持可** 可 吞 天牟 持ハ上ヲ受ケ嚙ンデ吞ムノ義デアル 可可牟吞  
天牟ハ中臣祓八箇ノ大事ノ一ツニテ諸抄ニ於テハ知レズト記サレテ

**如此可々**

牟吞

豆波

トハ物ノ究マル處

即チ陰變ジテ陽トナル

處デアル

抑モ可可牟吞豆牟ハ萬物ヲ速開津比咩嚙ミコナシテ元氣

トナスノ義デアル

元氣トハ土氣ノ事デアル 土氣ハ即チ息デアル

然レドモ分ケテ云フ時ハ 土ハ糟デ氣ハ形チナク 氣ハ息ノ(イ)ヲ  
略シタノデ(イキ)ト(イケ)五音相通ジマス ソノ氣ノ發動スルヲ吹戸ト  
申スノデアル 人ノ此ノ世ニ生存スルヲ(イキ)ト云フモ 人ノ(イケル)

中ハ息止マズ 死スレバ直ニ息止ムカラデアアル 去レバ萬物ノ生ル  
 形ハ土氣デアアルト云フ事ガ明カニ分リマス 土氣トハコレ氣質ノ義  
 ニテ即チ氣質ノ二ツヲ以テ人ト成ルノデアアル 天地モ氣質ノ二ツニ  
 テ成ル 天ハ陽ナルガ故ニ氣デアアル 地ハ陰ニシテ土デアアルカラ質  
 デアル 即チ氣質ノ二ツヲ以テ 天地人共ニ成リ立テ居ル〇倍此處  
 ハ前後ノ文意ヲ斟酌シテ説明セネバ理解シ難イノデアリマス  
**氣吹戸** 仁坐須氣吹戸主登云神氣吹放豆卒 氣吹戸ハ水  
 生レ木ト發勢スルノ義デアアル 戸トハ人ノ門戸ナドノ意 門戸ハ出入  
 スル處 戸ハ或ハ閉チ或ハ開クモノナレバ人ノ呼吸ト同ジ意味デア  
 ル 可レ可レ存ム氣本源ノ一氣ト成レルヲ此處ニ於テ吹出スノデアアル  
 氣吹戸主ハ中臣祓三箇ノ大事ノ一ツニテ今爰ニ奧祕ヲ明サバ 氣  
 吹戸主ト速開津比咩トハ 一氣ニシテ而モ二 二ニシテ而モ一 即  
 チ一氣兩功デアリマス 此ノ意義ハ終テ復始マリ 始モナク終リモ

ナク四時六陽(四)六陰(六)人ノ一息モ斯クノ如クデアツテ 未ダ卒セザ  
 ルニ早出ヅル息ヲ催シテ居ル コレダケデハ初學ノ者ニハ悟リ難キ  
 事ト思ヒマス〇氣吹放テントノ意義モ此ノ奧祕ニテ盡シ居レド 初  
 學ノ人ノ爲ニ簡易ニ之ヲ述ベバ 萬物生々此ノ氣ニ依ラヌモノナク  
 春夏秋冬ノ變化モ 人ノ日用動作モ 君臣父子ノ交ハリヨリ百般  
 ノ技藝ニ至ルマデ 一ツトシテ之ヲ離ル、ト云フ事ナク 皆氣吹放  
 ノ功デアリマス

〇第十一 鎮惡神之段

如此氣吹放豆波 根國底國 仁坐須 速佐須良比  
 咩登云神持佐須良比咩失豆卒

此ノ段ハ惡神鎮メノ段ト申シマス 邪神時ヲ得テ人迷信ニ陷レバ天  
 下亂ル 邪神退散スレバ 天下ハ眞ニ平ラゲク安ラゲクデアリマス

如此氣吹放豆波

靜カニ治マル コレ自然ノ勢ヒデアル

根國底國仁坐須

トハ斯様ニ氣吹戸主ノ働キ動キ極ツテハ必ズ

シ地ノ底デアルト云フハ一應ノ説デアリマス 何處ニテモ邪神ノ居

ル處ハ極陰ノ地デアツテ 取リモ直サズ根ノ國底ノ國デアアル 更ニ

語ヲ換ヘテ云ヘバ 神明ノ留リ坐マサヌ處ハ必ズ邪靈妖怪ノ蟠マレ

ル陰處ナルガ故ニ根ノ國底ノ國ト申スノデアアル 然ラバ又外ニノミ

見ズ 吾一身ヲモ願ミネバナラヌ

速佐須良比咩登云神 トハ極陰ノ地ニ棲ム邪神デアツテ即チ

惡神ノ總名ト見テ宜シイノデアアル 速ハ進ムノ義 佐ハ誘フ意 惡

ハ善ヨリモ進ミ易キモノニテコハ此ノ神ニ誘ハル、ノデアアル

持佐須良比咩失 持トアル此ノ一字ガ眼ノ着ケ處デアアル

則チ何ヲ持テ居ルゾト云フニ 人慾テフ邪氣ヲ持テ居ル 此ノ邪

氣吾レニ兆セルハ コレ佐須良比咩ニ誘ハレツ、アルノデアアル 然

ルヲ今件ノ祓ノ徳化ニテ コレ等諸ノ邪氣妖怪モ失フ故ニ 惡神鎮

メノ段トハ申スノデアアル○失ヒテントアルコレガ大事ナ處デ 邪氣

妖怪ヲ失ツテハ 跡ハ皆天道人道ニ任スノデアアル コレガ中臣祓修

行成就ノ處 此ノ外ニ言フベキモノ何モナシ 斯ク失フト云ツテ

道体ノ妙爰ニ極マリ 三種ノ神寶モ 十種ノ神寶モ 云ハズシテ自

ラ吾身ニ具備セルノデアアル

○第十二 八百萬神納受之段

如此失豆波 遺禮留 罪止 云罪咎止 云咎波 不在物於

止 祓賜比 清賜登 申事乃 由於 八百萬神等諸共仁

左男鹿乃 八乃 耳乎 振立天 聞食登 申壽

此ノ段ヲ八百萬ノ神納受ノ段ト申シマス 故ニ何レノ段ヲ唱フル時ト雖 此ノ一段ハ必ズ添ヘテ唱ヘネバナラヌト云フガ 吾ガ道統家ノ習ヒデアリマス

**如此失** 豆波 **遺** 禮留 **罪止** 云罪咎止 **云咎波** **不在物** 於止

斯様ニ十二段ノ理リヲ以テ 佐須良比咩共ニ邪念ノ私ヲ祓盡シ尖ツテハ 罪咎ハ毛頭残り居ラヌトノ義デアル 若シ再ビ犯ス事アラバ 罪咎一層重キガ故ニ 吾身ノ上ヲ堅ク慎マネバナラヌ〇倍此ノ段ニ於テハ 最早祓フベキ罪咎失セラナキ故 如此ノ訓ヲ(カクノ如ク)ト讀ミ 上ノ十一段中ニ於テハ 皆(カク)ト讀ム習ヒニナツテ居ルコト等ハ畢竟何レニテモヨキ様ニ思ハルレドモ 神書ハ斯様ナ細カナル處マデ心ヲ留メテ ソガ深意アル處ヲ窺ハネバナラヌノデアアル **祓賜** 比清賜 **申事** 乃由 於 トハ吾身ノ上ヲ祓賜ヒ清メ賜フト 清淨ノ心ニ成リマス ソノ清淨ノ心ニ成リシ趣 即チ祓ノ成就ヲ

**八百萬神等諸共仁**

此處ニ於テ 神明ニ申シ上グルノデ コレガ祓ノ最上デアリマス

ノ時 八百萬ノ神々諸共ニ 此處ニ降臨坐シテ納受シ玉フ 即チ吾

**左男鹿乃八耳** 振立 **聞食** 申

左男ハ鹿ト云ハン枕

詞ニテ狹衣ナドノ意味ト同ジ 夫レ鹿ハ靈獸ニシテ能ク天事ニ通ジ 降雨ヲ三日前ニ知ツテ ソガ用意ヲナスト云フ 此ノ靈獸ハ耳至ツテサトキガ故ニ 爰ニ鹿ノ耳ヲ以テ譬ヘニ舉ゲ玉ヒタノデアアル 吾國太古ニハ 鹿ノ肩骨ヲ焼イテ占ヒヲシタモノデアアルガ 今ハソノ傳モ絶エテ居ル 此ノ占考ハ唐ノ龜トノ類デアリマス 鹿ノ全身ニハ星ノ紋様アリ 角ハ日月ニ象ドリ 陰陽ノ理ヲ顯ハシテ年々ニ生ヘ代ハルト云フ 去レバ鹿ハ一身ニ天ノ三光ヲ具備シテ居ル 此ノ故ニ 神ノ事ニハ鹿ヲ喻ヘニ舉グルノデアアル〇八ノ耳トハ 神ノ

御耳ハ八方へ通ズ 即チ神通力ナルガ故ニ斯ク申スノデアリマス  
 八ハ天地ヲ統ベタル數ニシテ 例ノ如ク神道ニ貴ム處 コハソノ一  
 ト十トヲ除キテ 二ツヨリ九ツマデノ八ツヲ貴ムノデアル コレ無  
 窮ノ數ナルガ故デアリマス 而シテ又神道ニ八ツノ數ヲ貴ムト共ニ  
 耳ノ肝要ナルヲ説クハ ソモ耳ハ一元水ニ通ジ居ルカラデアル 則  
 チ神明ノ御耳ハ神通ニシテ 八方ヨリ申シ上グル事ノ趣ヲ一々聞コ  
 シ食シ玉ヒテ 必ズ其ノ應アル事ハ 山彦ノ如クデアリマス 蓋シ  
 神明ハ非禮ヲ受ケズ 唯一本元ノ清淨心ニ立チ歸ツテ 祈リ申スベ  
 キデアル 返ス返スモ慎ミガ肝要デアリマス

神道重位秘訣 切紙相傳

○中臣祓三箇之大事

高天原者即天理也天津罪國津罪者對人氣  
 吹戶主者對地

此ノ三箇之大事ハ 天地人ノ三才ニ當ツテ居ル ○人ニ對ストハ 人ノ作  
 ル罪ナルガ故デアル ○地ニ對ストハ 氣吹戶主ハ 萬物ヲ悉ク一氣ニ歸  
 ヘス 神靈ナルガ故デアル

高者示豎原者示橫然則虛空豎橫之中備神  
 德處則中之事理躰用之元本一理萬殊之宗  
 源也

高天原ニ 又天地人ノ三ツヲ具備シテ居ル 高ハ天デアル 原ハ廣キ處ヲ 指カラ 地デアル 天ハ理デアル 神デアル 亦一理ノ神德デアル 人々 天ノ神ノ一理ノ神德ヲ分殊シテ生ズルカラ 天ノ德ヲ内ニ具ヘテ生ル、ト云フ意味モテ 天ノ一字ヲバ 人ニ見ルノデアル 氣吹戸主ハ 未生ノ神 德デアル 天理ノ中体ニ位シテ 萬物ヲ主宰シ玉フ 天理ノ中体トハ 高天原ヲ指ス 高天原ニ神留リ坐ス神ハ 即チ氣吹戸主ナノデ 此ノ一理ノ 神德氣吹戸主ヲ 萬物ニ分殊スルノデアル 然レバ則チ 今日ノ我レハ 此ノ一理ノ神ノ分殊即チ分身デアル 依テ 高天原ニ神留リ坐スト云フハ 人倫日用ノ道理其ノモノ、事デ 言ヒ換ユレバ 人々日々ノ所作ニ就テ 道理ニ合フ其ノ處ガ即高天原ニ神留リ坐スデアル 天ニ氣吹戸主坐シテ萬 物ヲ造化シ玉フ如ク 日神 高皇產靈尊ハ 天上ノ高天原ニテ 萬民ヲ撫 育シ玉フ 故ニ高天原ニ神留リ坐ス皇親神漏岐神漏美ノ命ヲ以テ ト書カ

レ玉ヒタノデアル 日神 高皇產靈尊ハ 此ノ處ヲ御心トシ玉フ 凡ソ天 地間ノ事理 悉ク此ノ天ノ一理ニ合シテ漏ル、事ナキハ 確ニ一理ノ神ノ 天理ノ中体ニ坐ス故デアル 今日四時ノ行ハル、モ 即チ此ノ中体ノ作用 デアル 夏ハ暑氣強ク 冬ハ寒氣強ク 何レ其ノ位ヲ盡ス時ハ 萬物生々 ノ功ヲ遂ゲ 斯クシテ一理ノ神 此處ニ萬物ノ体ト成ツテ現ハル 一理萬 殊ノ根元トハ 蓋シ此ノ謂ヒデアル

天津罪國津罪者畢竟言傷衣食住之三元也 此三者人倫命所係也○天津罪者天之作罪 也言其罪感於天應於子孫國土罪者我之作 罪也忽有受於吾

天津國津ノ津ハ助字デアル 天津罪ト云ヘバ 直ニ 素戔嗚尊ノ天上ニテ

作り玉フ罪ヲ舉グレド 之ハ表ノ説デアツテ 裏ノ説ハ 天津罪ハ無形デア  
 アル 吾ガ心中ニ蟠ワカマル惡 天ニ感通シテ 聽タガテ形ナノ罪ト成ツテ現ハレ  
 來タル 之ヲ國津罪ト申ス 依テ天津罪ヲ犯ス時ハ 必ズ國土罪ヲ得ルノ  
 デアル 今日善人ニシテ不幸ナルハ 先祖ノ罪ノ未ダ消滅セヌ故デア  
 ル之ニ反シテ 惡人ノ幸ヒテ得ルハ 先祖ノ積善ノ故デア  
 ル罪ヲ犯ス時ハ 白人胡久美(病)ノ類ノ罪子孫ニ及ブ 恐レテバナラヌ 我  
 ガ罪ノ天ニ感ズベキ理ヲ 天津罪ト云ヒ 其ノ罪ノ我レニ報フナ 國土罪  
 ト云フ 斯クノ如ク 天津罪ハ天ニ通シテ 罪ヲ子孫ニ與フルカラ 云ハ  
 天ノ作ル罪デア  
 ル 國土罪ハ 我レ作ツテ 忽チ我レニ感ズルノデア  
 ル 氣吹戸主者一氣一理之根元也故號此曰天  
 柱國柱物者雖盡理者常也氣者雖散主者不

動假令春者盡于夏夏者盡于秋秋者盡于冬  
 冬者又盡于春而無盡之物是曰氣吹戸主也  
 以此不動物令流行者是則神力妙也雖然就  
 流行見之罔本然之體

氣吹戸主ノ氣ノ字ハ(ケ)ト(キ)ト同音デアツテ(イキ)ノ略語デア  
 ル (イキ)ヲ吹キ出ス意 戸ハ氣ノアル處ヲ指ス(イキ)ハ根元天地ノ風デア  
 ツテ 此ノ風地形ヨリ出ツ 即チ人ノ息ト同シ 人ノ息モ脾胃ヨリ出ツ 依  
 テ氣息ヲ司ツカサドルヲ 氣吹戸主ト申ス 中臣祓ニ 氣吹放チテントアルハ  
 萬物ヲ嚙ミ吞ンデ 悉ク其ノ形ヲ消化シ 而シテ一身ヲ養フト云フ意義  
 デアル 去レド分解シテ示ス時ハ 萬物ヲ嚙ミ吞ンデ消化スルハ 速開津  
 比咩ノ神徳デアツテ 其ノ消化シタル處ヲ 根元ノ一氣ニ歸セシムルハ



氣吹戸主ノ神德デアル 氣吹放チテント云フハ 其ノ一氣ヲ復悉ク萬物ニ分殊シ施シ、處ヲ指タノデアル 夫レ人ハ食ヲ以テ元氣ヲ養フ 此ノ元氣ナルモノガ 氣吹戸主ノ神デアルノデ 此ノ神德ニ依テ 天地モ常ヘニ立ツテ居ル 故ニ其ノ御別名ヲ 天ノ御柱 國ノ御柱ト稱シ奉ルノデアル

○物者トハ 萬物ヲ指ス 凡ソ形ナアル物ハ 一度ハ盡クレドモ 理ト云フモノハ滅セズ 人モ死スレバ 氣ハ散ズレドモ 其ノ主宰ノ靈ハ滅セヌノデアル 天地ニ於テモ 此ノ氣吹戸主ハ 常ヘニ坐ス 神代ノ卷ニ 日ノ若宮ニ住ミ玉フ云トアルハ 此ノ一靈ノ事デアル 儲此處ハ 氣ト理トノ容タナ云ハレマシタノデ 今日四時ノ流行ヲ見テモ 其ノ時ノ氣候ハ盡クレドモ 春ノ理ハ夏ニ隱レ 夏ノ氣盡クル時ハ 秋ノ理ハ冬ニ隱ル斯クノ如ク 盡氣ハクレドモ 其ノ理ハ盡キナイノデアル 故ニ氣吹戸主ハ 不生不滅ノ神德デアツテ 而モ此ノ妙用体ハ元不動デアル ○神力妙

トハ 此ノ氣吹戸主ノ神 國土萬物ヲ能ク主宰シ玉フ其ノ處ヲ指タノデ 軍旅ニ於テモ 心中ニ氣吹戸主ヲ能ク据ユル時ハ 其ノ功成ラズト云フコトナシ 然レバ此處ガ 第一ノ義デアル ○流行トハ 四時ノ次第ヲ云フタノデ 今年ノ春ハ 來年ニ歸ヘルト思フハ 本然ヲ罔スルノデアル

○五箇之大事

題號中臣祓

中臣祓者君臣共以此祓可爲日用之矩之題號也

所謂天孫降臨之時以 天照太神高皇產靈 尊勅命而天兒屋根命爲萬代之龜鑑記給也

因茲君臣共以此祓爲日用給然者可稱君  
 臣祓號中臣祓先對君宣教言至于末代不有  
 不德君之儀也

神學ハ 前記三箇之大事ノ理リヲ以テ 天地間ノ道理ヲ究ムルノデア  
 始メ高天原ニ 天地人ノ德ヲ連子玉ヒ 而シテ 上御一人ヨリ下萬民ニ至  
 ルマデ 身ヲ治ムルノ理リヲ説キ 尙ホ人ニハ賢愚アツテ 修行中耳目ニ  
 觸ル、事物ニ就テ 本心ノ德ヲ放散スルコトアリ 其ノ時心ヲ穢シテ 天  
 津罪ヲ犯シ 而シテ終ニ天罪ヲ蒙ムルコト等ヲ示シ玉フ ○偕斯ノ道此ノ  
 題號ノ處ニ於テハ 取り分ケ 人君ニ示シ玉ヘリトゾ申ス ソガ所以ハ  
 中臣ノ名ノ理リニテ コハ君道ヲ本トシテ 此ニ臣ノ道ヲ添ヘテ説キ玉ヒ  
 タノデア  
 謂ハユル 天孫降臨ノ時 君道ハ 瓊々杵尊ヘ示シ玉ヒ 臣

ノ道ハ 天兒屋命ヘ示シ玉フ 天兒屋命ハ補佐ノ臣ナルガ故デア  
 日神ト 天兒屋命ト 君臣ノ御誓ヒ 此ノ題號ニ籠ツテ居ル 盖シ中臣ハ  
 義訓デア  
 君ノ場ニ中ヲ置ク 是レ即チ 一天ノ主ニハ 不德ノ君ハ居  
 ヘ奉ラザルベシトノ義デア  
 天地ノ中道ヲ以テ 萬物ヲ主宰シ玉フヲ  
 中ノ位ト申ス 君ニシテ中体ニ叶ヒ玉フ時ハ 國家平安ナルガ故ニ 能ク  
 中体ニ叶ヒ玉フ明君ヲ 帝王ニ居ヘ奉レトノ 日神ノ御誓ヒデア  
 此ノ  
 故ニ末子女性ノ御身タリトモ 盛德ノ君ヲ 一天ノ主トスルコト 即チ  
 日神ノ御掟デア  
 ○臣ハ 下萬民富ノ意 上御一人中体ニ坐ス時ハ 其  
 ノ御德ニ服シ奉リ 國家萬民能ク富ト云フ 是レ端的ノ事デア  
 依テ此  
 ノ道理ヲ 攝官ヨリ申シ上グルデ 御即位アラセラル コハ君不德ニ坐セ  
 バ 天下ヲ保チ難シトノ意デア  
 此ノ 日神ノ御誓ヒヲ申シ上グル故ニ  
 一天ノ君モ 御慎ミアラセラル、ノデア  
 陽成院暴君ニ坐マセシ故 堀

川太政大臣 是レヲ退ケ奉リ 光孝天皇ヲ 御即位シ奉リシモ 此ノ御誓  
ヒアル故デアル 上ハ有徳ヲ以テ下ヲ惠ミ 下ハ器量ヲ以テ上ニ能ク仕フ  
ル様ニトノ御示シデアル 故ニ此ノ中臣ノ二字ハ 至テ重キ義ニテ 上ヨ  
リ下マデ 此ノ中臣ノ心ヲ以テ 身ヲ治ムベキ事ト 定メラレ玉フ

卷頭與此卷軸右加三箇云五箇之大  
事矣

左男鹿乃八耳

有情悉以耳爲根元言者耳者通於一元水在  
人腎水也是亦通於耳矣 問何乎曰通曰天  
理也是則道也此理滿塞於天地故曰道

○傳曰獨呼獨答以窺天命是則伊弉諾

尊上詣於天具奏其狀時天神 下略

耳ハ一元水ニ通シテ居ル 蓋シ一元水ハ萬物ノ元デアツテ 又萬物ヲ保ツ  
水デアル 萬物ハ一元水ヲ根源トシテ 水生木ト形ヲ成ス 則チ一元水  
ヲ母ノ胎内ニ宿シテ人ト成ルノデアル 道理ニ感ズル時ハ 心ヲ靜メテ聞  
ク故 自己ノ心根ニ徹スル 是レヲコレ 一元水ニ通ズルトハ申スノデア  
ル 能ク一元水ニ歸スル處ニ於テハ 天下ノ事理通ゼズト云フコトナシ  
依テ萬ツノ事 耳ヲ以テ通ズルヲ第一トス 其ノ通ズルモノハ 即チ天理  
デアル 然レモ 人事ニ誘ハレテ此ノ道理ヲ塞グカラ ソレデ耳ニ入リテ  
モ感通シナイノデアル 此ノ故ニ 神明ノ教ヘニヨリテ通ジテ見レバ 天  
理即吾ガ一身ニ滿チテアル故 耳ヲ以テ大切ニスルノデアル 此ノ故ニ道

理ヲサトル時ハ 天地ノ常變通ゼズト云フコトナシ 譬ヘバ藝能ニテモ 其ノ理ニ通ズル時ハ 神妙ノ場ヲ得ルト同一デアル ○傳ニ曰ク獨リ呼ビトハ 道理ヲ得心シテ 自然ニ道理ヲ呼ブ事デアル 其ノ道理ヲ呼フト云フハ 未ダ聞モ習ハズ 心モ付カヌ處ノ道理ヲ 自ラ呼ビ起ス事デ 是レ玄妙ニシテ 即チ自己ノ誠ノ妙用ト申スモノデアル 此ノ呼ビ起スハ 道理ノ表デアツテ 此ノ獨リ答フト云フガ裏デアル 自然ニ身ノ上ノ變テ感ズルハ 即チ此ノ答フト云フモノデアル 此ノ獨リ呼ビ獨リ答フルデ 身ノ常變ヲ悟ル處ハ 是レ人ノ誠ノ感ノ妙用ナリト知ラチバナラヌ 依テ八洲起源之段ノ始メニ 伊弉諾尊天ニ上リ詣テトアルモ 伊弉諾尊ノ至誠ノナス處ニシテ 此ノ至誠ノ場ニ成ツテハ 天ノ神ヘ一代ノ功作ヲ申シ上グルト云フガ 誠ニ上天妙果ト申スモノデアル

○八箇之大事

天津祝詞太祝詞  
 天津祝詞者歸性虛靈之處太祝詞者祈願告神詞也

天津ノ津ハ助語デアル 天ハ天理ヲ指ス 祝詞トハ 法言葉ト申ス義 ソモ天理ヲ 祝詞ト唱フルハ 不言ノ言デ 此ノ不言ノ言ヲ 天津祝詞ト申スノデアアル 言ヒ換ユレバ 虛靈ニ歸ツテ申シ出ス處ガ即天津祝詞デアアル ○太祝詞トハ 其ノ天理ノ不言ノ言ヨリ出ヅル事ハ 即チ至誠ノ詞ナルガ故ニ 太祝詞ト申スノデ 爰ハ 神明ヘ申シ上グルノデアアル 亦管ニ 神明ヘ申シ上グルニ限ラズ 五倫ノ交ハリ皆此ノ祝詞ニ叶フニアラザレバ 國家平安ナラズ 平生ハ勿論 主君ヘ諫メテ申シ上グル時モ 曲玉ノ徳ヲ以テ一度和シ 而シテ行フガ是レ祝詞ノ業デアアル 和シテ行ヒ 而シテ全

ク治マリタルハ 曲ゲテ曲ラヌ道ナレバ 是レ即チ祝ヒノ詞デアアル 蓋シ  
中臣ノ中ノ意ト同ジ 中ヨリ左右ヘ寄リテモ 中ハ中デアアル

### 天津菅曾

神代以菅縫笠以茅萱作簑安之天孫降臨之  
時紀伊國忌部遠祖手置帆負神爲笠縫有之  
菅者縫笠曾者編茅如衣爲身之蔽古語都衣  
類言衣也家屋者爲掩雨露也編茅葺屋上以  
留雨露編萱名苦留之下略也離家不放此二  
器誠旅行之要也

○傳曰大人尙可思大小之器隨時依處而

其用有先後大次小小超大大也大小上下  
之衆人亦猶然矣

此ノ被ニ(チガヤ)ノ事ヲ 菅曾ト書カレマシタ 大戸之道尊 大苦邊尊ノ  
時 謂ハユル萬物氣化ノ始メノ時 人ハ萬物ノ靈長ナルガ故ニ 茅萱ヲ以  
テ屋根トセラレシ 去レバ萱葺ハ 古風ノ体デアアル 苦ハ(雨露ヲ留ム)意  
然レバ人ノ衣食住ノ一ツノ住居ヲ 此ノ(チガヤ)ニ籠メテ説カレテアリマ  
ス 菅ハ日ヲ覆ヒ 茅ハ雨露霜雪ヲ凌グ 則チ家居ノ總名ナ 此處ニ擧ゲ  
ラル 手置帆負神ハ 天性笠縫ノ業ヲ得テ居ラレシト云フ 總ベテ 神明  
ハ 其ノ得ラレシ處ヲ採用シテ召仕ヒ玉フ故 各々能ク天命ヲ盡シ玉ヒシ  
ト 是レ神明ノ智ノ然ラシムル所 笠ハ(重ナル)ト云フ訓デアアル 即チ頭  
上ニ重ナルト云フ意 簑ハ(身ノ覆ヒ)ト云フ訓ニシテ 皆(チガヤ)ノ徳用

デアル 菅曾ノ曾ハ(身ニ添フ)ト云フ意 人々ノ身ニ添フモノハ 衣服デア  
 アル 依テ此處ノ菅曾ト云フニ 衣住ノ二ツヲ籠メテ見ルノデアル 茅ト  
 菅曾ト 元ハ同ジニテアリシガ 今ハ別ニナツテ居ル  
 ○傳ノ趣旨 旅行ニハ 笠箆ハ殿閣ノ用ヲ足ス 然レバ重キ用ノ代リヲナ  
 シマス ○上下云トハ 下民モ其ノ業ニ臨ンデハ 用ノ便ニ随ツテ 重  
 キ用ヲモ足ストノ意

### 高津神高津鳥

五箇加高津神高津鳥等云八箇或除高  
 津神高津鳥加可可吞天牟為八箇先加  
 高津神高津鳥而可為八箇  
 高津神者雷神也高津鳥者天狗類也云鸞熊

鷹等之災龍雷元一氣者故凡曰高津神也高  
 津鳥者感於人之慢氣現相者也天地之邪氣  
 也

天皇紀ニ 天狗テアマツキツ子ト讀マセ コハ天ヨリ來ル災ヒトシテア  
 ル 龍雷ハ陰陽二氣ノ靈氣ニシテ 此ノ靈氣 天地ニ在ツテ 龍雷トナル  
 ノデアアル 則チ夏ノ早リニ 雨ヲ以テ國土ヲ潤ホスハ 龍ノ德デアアル 上  
 人君ノ 國家ヲ潤ホシ惠ミ玉フモ 同ジ德ナルガ故ニ 天子ヲ龍ニ譬ヘ奉  
 ルノデアアル 爰ニ高津神ノ災ヒトアルハ 天ヨリ災ヒ來ルトノ意 高津鳥  
 ハ 天狗ノ事デアアル 天狗ハ天地ノ邪氣デアアル 即チ天地ノ間ニ滯フル處  
 ノ邪氣ニシテ 高慢ノ心ニ感シテ 災ヒニ引入ル、モノデアアル 人々慢心  
 增長スル時ハ 同氣相感シテ 災ヒヲナス事 恰モ磁石ノ北ニ感ズルガ如

シ 滯フル邪氣トハ 人ハ死スレバ 天ニ歸ヘルベキモノナルニ 高慢ノ  
氣 邪氣ト成リテ天ニ歸ヘルコト能ハズ 其ノマ、深山幽谷ノ間ニ蟄シテ  
居ルノデアル 死シテ其ノ氣 天ニ歸ヘルコト能ハザルハ 是レ禽獸ニ同  
ジキガ故ニ(天ツキツチ)ト訓ズルノデアル 學オナド有ル者ノ 却テ天ヲ  
モ犯スコトアルハ 是レ皆自己ノ慢心ノ爲ス處ニシテ 恐ルベキ事デアル

○別傳

可牟可天牟吞

瀨織津比咩祓賜穢惡大海原則速開都比咩  
請取以嚙吞給氣吹戶主請取而氣吹拂給也

穢惡トハ 萬ノ塵芥ノ事デアル 山々ヨリ落チ來ル萬物ヲ籠メテ ソレヲ  
川ノ神靈ガ 海へ入レ玉ヘバ 潮ニ揉ミ合セテ消化スル 此ノ嚙ミ吞ムト

云フガ 第一ノ處デアル 可牟可天牟吞天牟ト云フハ(カミカミテ吞ム)ト申ス  
訓デ 此ノ(カミカム)ト云フニカラノ入ル所 其ノ(カム)ト云フハ 速開  
都比咩ノ功作ナレドモ 萬物ヲ消滅シテ 天地ノ一氣ニ歸ヘス處ハ 即チ  
氣吹戶主ノ神德デアル 氣吹戶主ハ 道体 國常立尊ノ神德デアル 萬物  
性ヲ盡ス時ハ 根元ノ一氣ニ歸ヘル 人々天命ニ背ク時ハ 一氣ニ歸ヘル  
事ハ出來ヌ ヲハ根元ノ道ニ背ク故デアル 一氣ニ萬物ノ歸ヘルモ 氣吹  
戶主ノ功作 又萬物ノ生シ來ル處モ 此ノ神ノ命ニ依ル 依テ 國常立尊  
ト一神ナレドモ 御名ヲ別ニシタルハ、一氣ニ歸ヘリ 又生々ノ功ヲ主リ  
玉フ處ナルヲモテ 氣吹戶主ト申スノデアル 偕落瀧津ト云フヨリ 形チ  
ヲ消化スル間ハ 陰ノ祓ニシテ 氣吹放チテント云フハ 既ニ消化シタル  
時故 陽ノ祓デアル 蓋シ天地モ 此ノ陰陽ノ祓ニ依テ無窮デアル 人モ  
太陽太陰ノ祓ニ依テ 各自天命ヲ盡スハ 即チ天地ト同様ナルガ故ニ 天

地ニカケテ 唯一ニ説キ示サレタノデアル

○最要中臣祓

高天原<sup>ハ</sup> 治己<sup>レ</sup> 天津祝詞<sup>ハ</sup> 教人<sup>ニ</sup> 祓賜清<sup>ニ</sup>  
給<sup>フ</sup> 平天下<sup>ニ</sup>

最要中臣祓トハ 中臣祓ノ最モ肝要ナル部分ヲ 約メテ用井シモノデアル  
上古以來 天子ヲ始メ 攝政關白左右大臣ヨリ庶人ニ至ルマデ 此ノ中臣  
祓ヲ 毎朝唱ヘテ 天子ハ天長地久下萬民ノ平安ナラン事ヲ祈リ玉フ 盖  
シ 天子ト雖モ 氣候ノ變遷豊凶妖災等ノ不時ノ事ハ 御心ニ任セ玉ハズ  
則チ人カヲ以テ及ビ難キ處ナレバ 常ニ天ニ祈ルト云フ事ハ 慎ミニシテ  
天ヲ恐ル、ノ道デアル 天ヲ恐ル、時ハ 過チニ遠ザカリマス 其ノ以下  
親王大臣ヨリ庶人ニ及ブマデ 毎朝祓ヲ唱ヘ 神明ニ祈リテ 災難ヲ掃ヒ

身ノ幸ヒテ願フ事ハ 神代ヨリ吾ガ日本ノ風習デアル 然ルニ神代遠ク澆  
季ニ降ルニ隨ヒ 世ノ事多ク成リ 一日ニ萬機ノ政アリケレバ 此ノ中臣  
祓ヲ一遍唱ヘラル、事 朝政ノ障リト成ルトアツテ ソレデ 天子ヘハ  
其ノ要文ヲ取り約メテ 最要中臣祓ト名ヅケ 以テ之ヲ授ケ奉ルニ至ツタ  
ノデアル 故ニ此ノ最要中臣祓ハ 天子ニ限り 至テ重キ義ナルヲモテ  
神道重位ノ傳ノ中ニ加ヘラレテアルノデアル

高天原 治己

高天原ニ神留リ坐スト云フハ 即チ我レヲ治ムル處デアル 天ノ神ノ一理  
萬物ニ分殊シテ 今日胸中ニ具有シ ソシテ日用萬端ノ事ニ應ジテ居ルノ  
デアル 然レドモ人欲ト云フモノ 此ノ氣質ニ具ハリテアレバ 人慾ノ爲  
ニ 心ヲ耳目ニ遷シ 物ニ奪ハレテ 常ニ本心ハ虚ニナツテ居ル 則チ一  
念ノ人慾起レバ 胸中ノ神ハ離レ去ルカラ 胸中空虚トナルノデアル 故



ニ此ノ神ヲ 胸中ニ留ムル時ハ 身治マリテ 萬機ノ政モ 明カニ正シク 行ハル、ノデアアル

### 天津祝詞 教人

天津ハ天上ノ縁語 津ハ助語デアアル 祝詞ハ法言葉デアアル 心正シケレバ 詞直クシテ又正シク 而シテ人ヲ治ムル時ハ 人信用シテ之ニ順フ 凡テ 政ハ 天下ノ政モ 一郡一村ノ政モ 正シフシテ私ナキヲ本トシテアル 故ニ政ハ(祭リノ如シ)ト云フ訓義デアアル 人モ神祇ヲ祭ル處ニ於テハ 毛 頭私心ナク 道理ノマ、ニシテ祭ル 此ノ故ニ 神祇ヲ祭ル心ヲ以テ國家 ナ治ムル處ヲ 政ト申スノデアアル 須更モ欺キ謀ル處アル時ハ 一旦ハ下 ニテ受クト云フトモ 重子テハ 何事ヲ仰セ出サレテモ 下之ヲ信用セズ 却テ欺キ謀テ之ニ對ス 故ニ 軍術ヲ好ミ 計策ヲ以テ治ムル時ハ 常ニ 上下ノ間ニ疑ヒヲ生ジテ 上ハ下ヲ欺キ 下ハ上ヲ欺キ 事トシテ信用ヲ

ナサズ 斯様ナル時ハ 大節ニ臨ンデ 上下衆ノ心一致セズ 衆ノ心一致 セザレバ 敵ニ對セヌ前ニ 味方先ヅ頼<sup>タカ</sup>レテ引出スモノデアアル 故ニ祝詞 ノ正シキ道ヲ以テ常ニ治ムル時ハ 正シキ道 風俗ト成テ 衆ノ心信ニ馴 ル、モノデアアル 信ニ馴ル、時ハ 事ニ臨ンデ忠義ヲ盡ス者多ク 衆ノ心 計策ニ馴レテ 常ニ虚偽ノ風俗ニ成ルカラ 事ニ臨ミ 高祿ノ餉<sup>カネ</sup>ニ甘ナヒ テ 敵國ニ内應シ 謂ハユル後口矢射ル事アリ 是レ皆虚偽ノ然ラシムル 所 故ニ大將タル人ハ 斯様ナル節ヲ 常ニ辨知スベキデアアル ○儲父 祝詞ニ兩意アリ 正シフ行フ處ハ 理ノ表ニテ 和シテ行フ處ハ 理ノ裏 デアル 和シテ行フトハ 曲リテ曲ラヌノ謂ヒデアアル 事ニ於テ 一旦曲 ゲテ其ノ心ニ從ヒ 其ノ心ヲシテ 終ニ道理ニ導ク 是レ則チ 和シテ應 ズル所以デアアル 去レバ此ノ祝詞ノ理ヲ以テ治ムル時ハ 五倫ノ間能ク和 レテ治マルニ至ル 斯様ナル時ハ 天下萬人悉ク感服ス 是レヲコレ眞ニ

治マルトハ申スノデアアル

### 祓賜 江 清賜 布 平天下

右祝詞ノ兩意ヲ以テ治ムルト雖モ 惡人ハ德ニ背ク 上ニ溫和ノ政ヲ行ハ  
 ル、ニ 惡人ハ却テ惡ヲ放ニシ 制法ヲ犯シテ人ヲ損フ 故ニ惡人ハ刑罰  
 ニ處シテ之ヲ祓ヒ 世ヲ清メテ 民ヲ安ンゼバナラズ 蓋シ溫和ハ 政ノ  
 本ニシテ萬民安ンズト雖モ 盜心ノ徒 放逸ノ輩ハ便リヲ得テ恐レズ 忽  
 ガセニシテ恐レザル時ハ 惡行ヲ犯ス者 日々ニ増加ス 然レバ溫和ノミ  
 ニテハ 却テ惡人ヲ増スニ至ル 乃チ溫和ニシテ民ヲ安ンジ 惡ヲ見テハ  
 速ニ罰ス 是レガ瓊矛ノ德ト申スモノデアアル 斯クシテ世ハ 無事平安ニ  
 治マルノデアアル

### ○解除 祓

### 先氣息運數

口授

咒文曰高天原 神留坐

須

○本書曰有生者必有死生者死之始死  
 者生之終 天壽在天義所建隨天之道  
 也故以義存焉以義亡焉是所以守命  
 矣 口授

解除祓ハ 心ノムスボフレテ解キ除ケ祓フノデアアル 人ノ盛衰ハ 天ノ四  
 時運行ト同シ 然ルヲ衰ヘタル時ハ 物ニ執着シテ 心ノ本体ヲ曇ラス  
 此ノ時 常ノナキ事ヲ悟リテ 執着ノ念ヲ祓ヘバ 即チ本心朗ラカニナリ  
 マス 其ノムスボフレテ解クニハ 氣ヲ能ク鎮メ治ムル 之ヲ此處ニ 氣  
 息運數ト切紙ニ書カレ玉ヒタノデアアル 能ク悟リタル時ハ 即高天原デア  
 ル 故ニ人々日々此ノ祓ヲ受用セテバナラヌ 此處ヲ中臣祓ニハ「大船ノ

舳綱解放ナ艦綱解放ナテト書カレ玉フ 祓ノ肝要ニシテ 而モ祓ノ業ノ  
日用ナル故ニ解除祓ト申ス 則テ題號ヲ以テ教ヘノ第一トスルノデ 畢竟  
最要祓ノ御教ヘノ及ビタル處デアル 依テ世々重キ口訣トシテアリマス

○尙ホ本書トアルハ 神祇道統家ノ祕書ナルガ故ニテ 中納言伊美磨ヲ  
以テ 代々ノ祕書中ヨリ 其ノ文ヲ取り用井テ 總ベテノ傳授切紙ト  
セラレタノデアアル

### ○三種太祓口訣

此ノ三種ハ 天地人ノ三オデアアル 三オ元唯一ニシテ 其ノ唯一ヨリ 天地  
ト成リ 三オト成リ 三種ト成ツタノデアアル 三種別レテ十種ト成ル 故ニ  
十種圓滿各々成就ノ理リニシテ 天地間ノ事 悉ク皆三種ノ道理ニ漏ル、コ  
トナシ 依テ往古ヨリ 此ノ祓ノ意味 獨リ吾ガ道統家ニ秘シテ 容易ニ

### 吐普 加身 依美 多女

世ニ傳ヘザリシ 蓋シ祕スハ悖ムニアラズ 重ンズルノ謂ヒデアアル

是レヲ天津祓ト申ス ○吐普ノ吐ハ 止マルト云フ意ニテ 水デアアル 一  
應ハ 神代ノ神語ニシテ コハ自然ノ言葉ナリト説クノデアアル 然レモ  
爰ノ吐ノ字ノ意ハ 止水天ノ不動ニシテ 一滴水デアアル 即チ天沼名井ツクナナデ  
アル 天ノ一元水ヲ 父ヨリ母ノ胎内ニ收メテ 陰中ノ陽火ヲ以テ温メラ  
レ 而シテ血ト成リ 肉ト成リテ 人ト成ルノデアアル 其ノ人ト成ルベキ  
元水ヲ指テ吐ト云フ 普ハ陽德ニシテ 火デアアル 此ノ吐普 即チ陰陽ノ  
二氣 是レガ萬物ノ形チヲ養フ元デアアル 然レバ吐普ノ二字ハ 萬物ノ父  
母デアアル 萬物爰ニ基ヅキテ 形チヲ養ヒ育ツ ○加身ハ 一物成リテ  
萬物ノ上タル意 混沌水分ノ一氣開ケテ 五氣天ニ現ハレ 夫レヨリ陰陽  
昇降シテ 地ニ又五行備ハリ 溼土ウイヂニ 沙土スイチニ 炎ノ功作ニ依テ 土ニ甘キ味

ヒヲ含ンデ 萬物土地ニ化シ形ヲ現ハス 此ノ形ヲナス最初ニ氣化セ  
 シハ人デアル 人トハ(日ト伴フテ生ル)ノ訓義ニテ 謂ハユル萬物ノ靈長  
 タル所以 即チ萬物ノ上タルヲ以テ 加身ト稱スルノデアル ○依美ハ  
 物ノ(エミル)ト云フ意(エミル)トハ 開ク意味ニテ 人モ心地ヨキ事ニハ  
 笑ミヲ含ムト云ヘルガ如ク 金氣至極シテ天地開クルト共ニ 土中モ又至  
 極シテ萬物生ズ 依美ハ 森羅萬象悉ク此處ニ出生スル理リアル事ヲ示サ  
 レタノデアル ○多女ハ 種子ノ意 又實ノ意 是レ萬物出生ノ根元デア  
 ル ○今是レヲ 五方ニ配シテ説キ示サバ○吐ハ 北方ニシテ水デアル  
 故ニ其ノ色黒シ○普ハ 南方ニシテ火デアル 故ニ其ノ色赤シ○加身ハ  
 東方ニシテ木ニ取ル 故ニ其ノ色青シ○依美ハ 西方ニシテ金ニ配ス 故  
 ニ其ノ色白シ○多女ハ 中央ニシテ土ニ配ス 故ニ其ノ色黄デアル 然レ  
 バ此ノ神文 吐普 加身 依美 多女ノ内ニ 天地四方中央共ニ籠リテ居

テ 一ツモ漏ル、モノハナイノデアル  
**寒言神尊利根陀見**

是レヲ國津祓ト申ス ○此ノ八字ハ 八方ノ諸神ヲ指テ 八百萬ノ神殘ヲ  
 ズト云フ意デアル 是レハ後世ニ 八方ノ名目ヲ 易ヨリ借り來テ加ヘシ  
 モノデアル 吐普 加身 依美 多女ニ五行ヲ備ヘ 五行ハ即天地ノ形ヲ  
 デアル 然レバ上代ノ三種太祓ニハ 此ノ寒言神尊利根陀見ノ語ハナキ道  
 理ナレドモ 中古吾ガ道ノ達人 此ノ語ヲ應用シ來タモノト見エマス 故  
 ニ是レハ 國津祓ト申シテアリマス  
**波羅伊玉意 喜餘目出玉** 布  
 是レハ蒼生祓ト申ス ○此ノ御文義ハ 畢竟人々ノ心持デアル 私慾ノ念  
 慮ヲ以テ 性命ヲ穢ス處ヲ顧ミ 此ノ御文義ノ大意ヲ以テ 邪氣妖怪共ニ  
 祓フ神語デアル 天地ハ萬物ヲ生ズ 萬物ハ天地一元ヨリ分レテ 一草一

木モ 悉ク皆靈氣ヲ具備セルガ故ニ 其ノ處ヲ違ハズ 花咲キ實ノル事ヲ  
 ナス 人ハ萬物ノ靈長ニシテ 全ク天地ヲ具ヘテ 一人小天地ノ理リデア  
 ル 然レドモ人ニハ 人慾ト云フモノアツテ 天地人ノ直グナル道理ヲ曲  
 グ 爰ヲモテ 神ト人トノ違ヒガ出デ來ルノデアアル 然レバ此ノ人慾ヲ祓  
 ヒテ 天地本元ノ清淨心ニ立テ歸ラバ 即神ト申スベキデアアル 去レバ  
 神ト申シテ外ニハナシ 天ノ一理ニ歸ラバ 我レ即チ神デアアル 此ノ理ヲ  
 身ニタモツ處ハ 是レ祓ノ徳功デアアル 日用起居動靜ニモ 此ノ道理ヲ  
 丹田ニ收メテ 祓玉ヒ清メ玉フト念ズレバ 人慾ノ雲霧立チ處ニ消エテ  
 心正シク成リ 外ニ對シテハ 邪氣妖怪ヲ掃フニ至ル  
 抑モ此ノ祓ヲ 三和太祓ト名ヅケラレ玉ヒシハ 天地人ノ三才ヲ舉グレバ  
 五行ハ言ハズシテ 自ラ其ノ中ニ籠レルガ故デアアル  
 日本神代史正解第一終

明治卅八年四月二十日出版  
 全 年四月廿五日發行

《正價金三十五錢》

講述者

吉川惟足

編者兼  
 發行者

宮澤圓隆

東京市下谷區竹町十二番地二號

印刷人

北澤久太郎

東京市京橋區大鋸町十四番地  
 活版印刷所

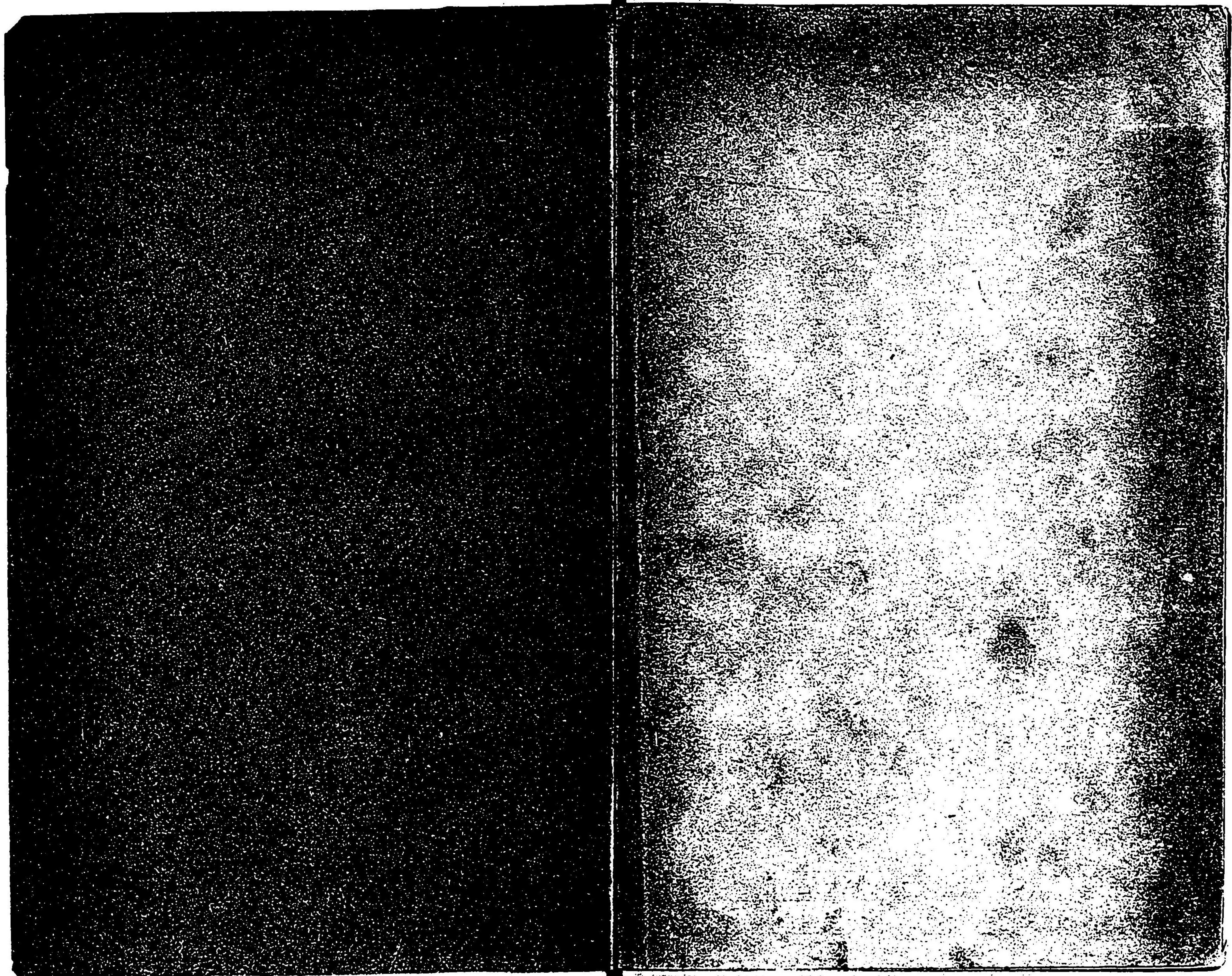


發行所

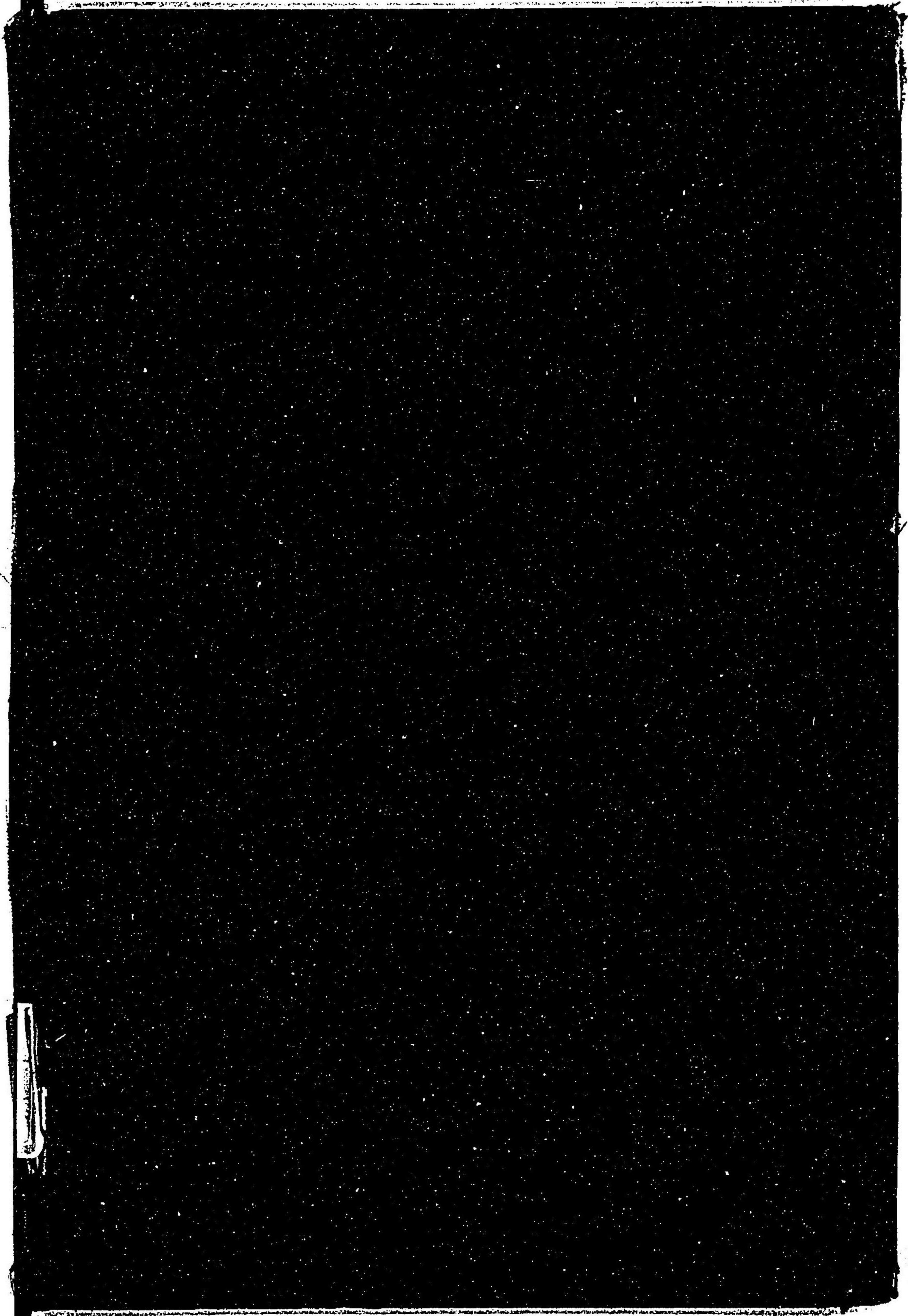
東京市下谷區竹町  
 十二番地二號

大日本神祇道本部

319  
 110



1319
110





319  
110

014217-001-8

319-110

神代史正解 (日本国教)

吉川 惟足/述

1冊

M38-40

ABB-0538



